



北部4地区 地域再生計画

令和2年9月



北部4地区 地域再生計画 目次

1	はじめに	1
1-1	計画策定の趣旨	1
1-2	復旧・復興計画との関係	1
1-3	計画の構成	1
2	北部4地区の現状と課題	2
2-1	地区の概要	2
2-2	被災状況	5
2-3	復旧事業の実施箇所	9
2-4	住民意向（住民アンケートより）	11
2-5	地域再生に向けた課題	13
3	北部4地区の地域再生方針	14
4	エリア別再生計画	15
4-1	本計画の策定プロセス	15
4-2	再生計画のエリア区分	16
4-3	幌内エリア再生計画	17
4-4	富里・高丘・吉野エリア再生計画	24
5	今後の予定	36

1 はじめに

1-1 計画策定の趣旨

平成30年9月6日未明に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」による災害（以下、「本震災」と記す。）により、未曾有の被害を受けました。特に、北部山間地を中心に広範囲で山腹崩壊が発生し、流出した土砂により甚大な被害を受け、発災から1年半を経過した現在も多くの方が応急仮設住宅等での生活を余儀なくされています。

このような被害状況を踏まえ、厚真町では、町全体の復旧・復興に向けたビジョンや実現までの事業計画、工程などを取りまとめる、「厚真町復旧・復興計画（以下、「復旧・復興計画」と記す。）」の策定と並行し、北部山間地の4地区（幌内・富里・高丘・吉野）（以下、北部4地区と記す。）を対象に、地区毎に困りごとや生活再建意向、集落の改善意向を伺い、地区の再生に向けた話し合いを進めてきました。

地域再生計画（以下、「本計画」と記す。）は、各地区での話し合いの結果を踏まえ、今後の復興に向けて安全な暮らしを支え、災害に強い地域を実現させるための、住まいや社会生活基盤（道路、避難所等）の整備方針、事業手法、およびそのロードマップ等を取りまとめるものとして策定します。

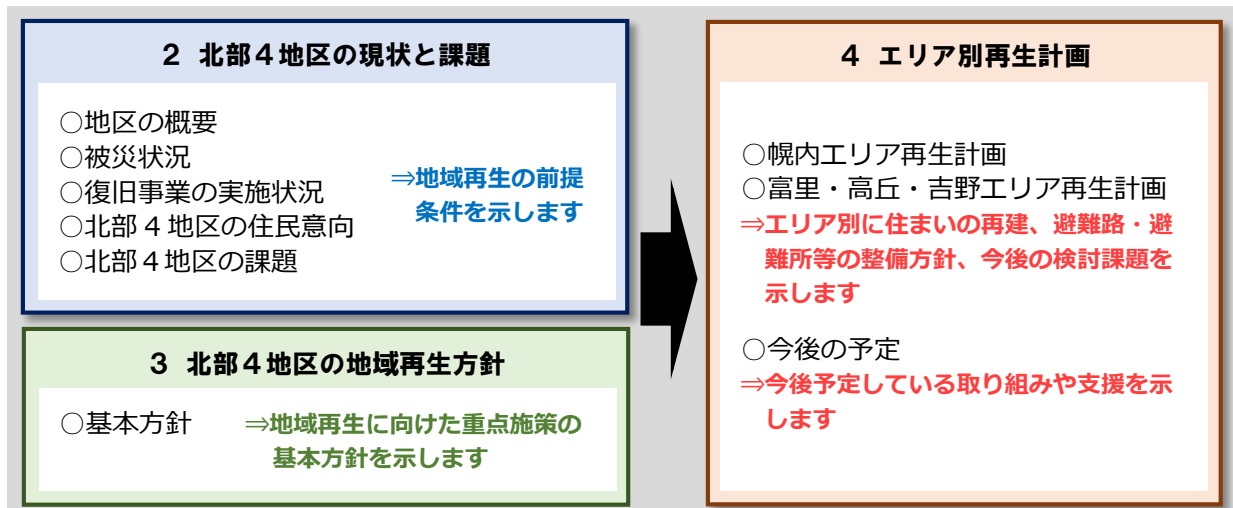
1-2 復旧・復興計画との関係

本計画の内容は、「復旧・復興計画」に反映します。復旧・復興計画（第2期）（令和2年3月策定）の中では、「5. 地域別整備方針 5-1 北部4地区」に反映しています。

1-3 計画の構成

本計画は、北部4地区に共通する「現状と課題」と「地域再生方針」、およびその方針に基づいた、各エリアの「エリア別再生計画」で構成します。

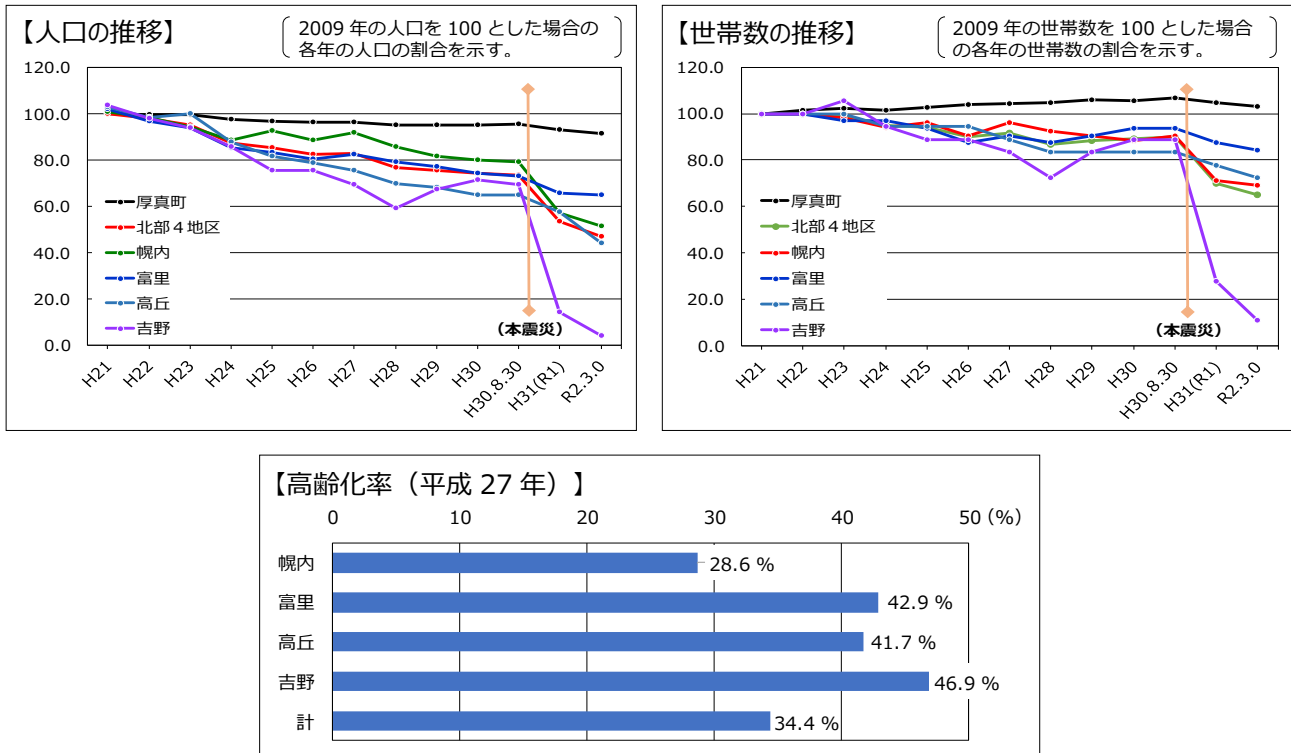
図表 1-1 計画の構成



(2) 人口・世帯数・高齢化率

北部4地区の人口・世帯数は、震災前から緩やかな減少傾向が見られ、震災後は減少傾向の加速が見られています。また、高齢化率は、平成27年時点で約34.4%となっており、3人に1人以上が65歳以上の高齢者となっています。

図表2-2 被災前後の人口・世帯数の推移と高齢化率



(人口)

字名	人口 (人)													震災前 平均増 加率	震災後 平均増 加率
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30 (8/30)	H31	R2 (3/1)		
幌内	126	124	119	112	117	112	116	108	103	101	100	72	65	-2.19	-23.33
富里	97	94	91	83	81	78	80	77	75	72	71	64	63	-2.85	-7.51
高丘	66	65	66	58	54	52	50	46	45	43	43	38	29	-3.70	-21.71
吉野	49	48	46	42	37	37	34	29	33	35	34	7	2	-3.25	-62.75
北部4地区	338	331	322	295	289	279	280	260	256	251	248	181	159	-2.83	-23.92
町全体	4,890	4,886	4,870	4,779	4,739	4,712	4,708	4,666	4,659	4,652	4,671	4,559	4,481	-0.48	-2.71

(世帯数)

字名	世帯数 (世帯)													震災前 平均増 加率	震災後 平均増 加率
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30 (8/30)	H31	R2 (3/1)		
幌内	52	52	51	49	50	47	50	48	47	46	47	37	36	-1.02	-15.60
富里	32	32	31	31	30	28	29	28	29	30	30	28	27	-0.66	-6.67
高丘	18	18	18	17	17	17	16	15	15	15	15	14	13	-1.77	-8.89
吉野	18	18	19	17	16	16	15	13	15	16	16	5	2	-1.18	-58.33
北部4地区	120	120	119	114	113	108	110	104	106	107	108	84	78	-1.06	-18.52
町全体	2,004	2,035	2,046	2,035	2,057	2,082	2,093	2,097	2,123	2,119	2,141	2,099	2,070	0.73	-2.21

(注) 人口・世帯数は住民基本台帳の数値を、高齢化率は国勢調査の数値を使用。

各年の人口・世帯数は、各年3月末または4月1日時点の数値を使用 (括弧書きの日付記載年を除く)。

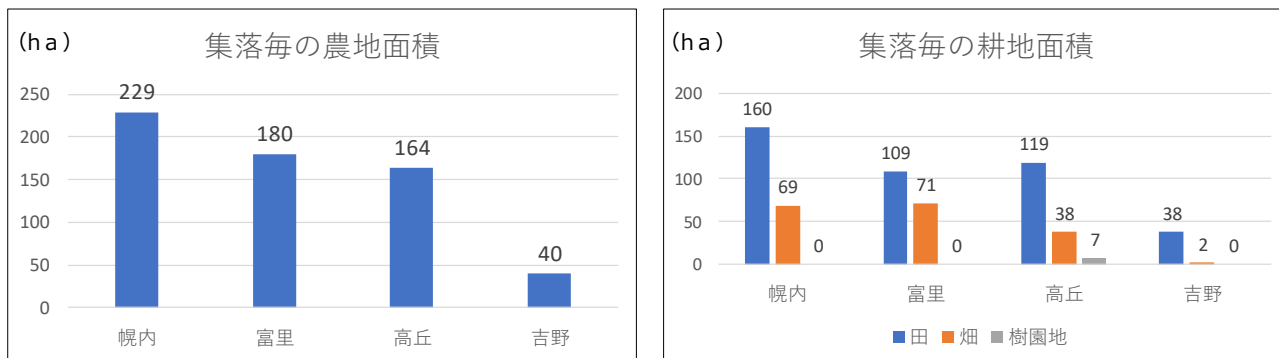
震災前平均増加率は、H21からH30 (8/30) までの増減数の1年あたりの平均値を示す。

震災後平均増加率は、H30 (8/30) からR2 (3/1) までの増減数の1年あたりの平均値を示す。

(3) 農家数・農業就業人口・農地面積

北部地区の農家戸数は世帯数の半分程度であり、うち販売農家は約9割となっています。また、販売農家のうち、兼業と専業はそれぞれ半分程度となっています。農業就業人口のうち、65歳以上は約4割となっていますが、5年経過した現在は更に増加が想定されます。

図表2-3 農家・農地の状況（2015年農林業センサスより）



(農家数・農業就業人口)

字名	農家数 (世帯)				自給的農家	農業就業人口 (人)			
	計	販売農家	専業	兼業		計	男性	女性	65歳以上
幌内	21	18	11	7	3	37	20	17	19
富里	14	13	6	7	1	23	11	12	6
高丘	11	10	6	4	1	24	14	10	7
吉野	6	5	3	2	1	7	5	2	4
計	52	46	26	20	6	91	50	41	36

(耕作面積)

字名	耕地面積 (ha)				農家一戸当たりの面積 (ha/戸)
	計	田	畑	樹園地	
幌内	229	160	69	-	10.9
富里	180	109	71	-	12.9
高丘	164	119	38	7	14.9
吉野	40	38	2	-	6.7
計	613	426	180	7	11.8

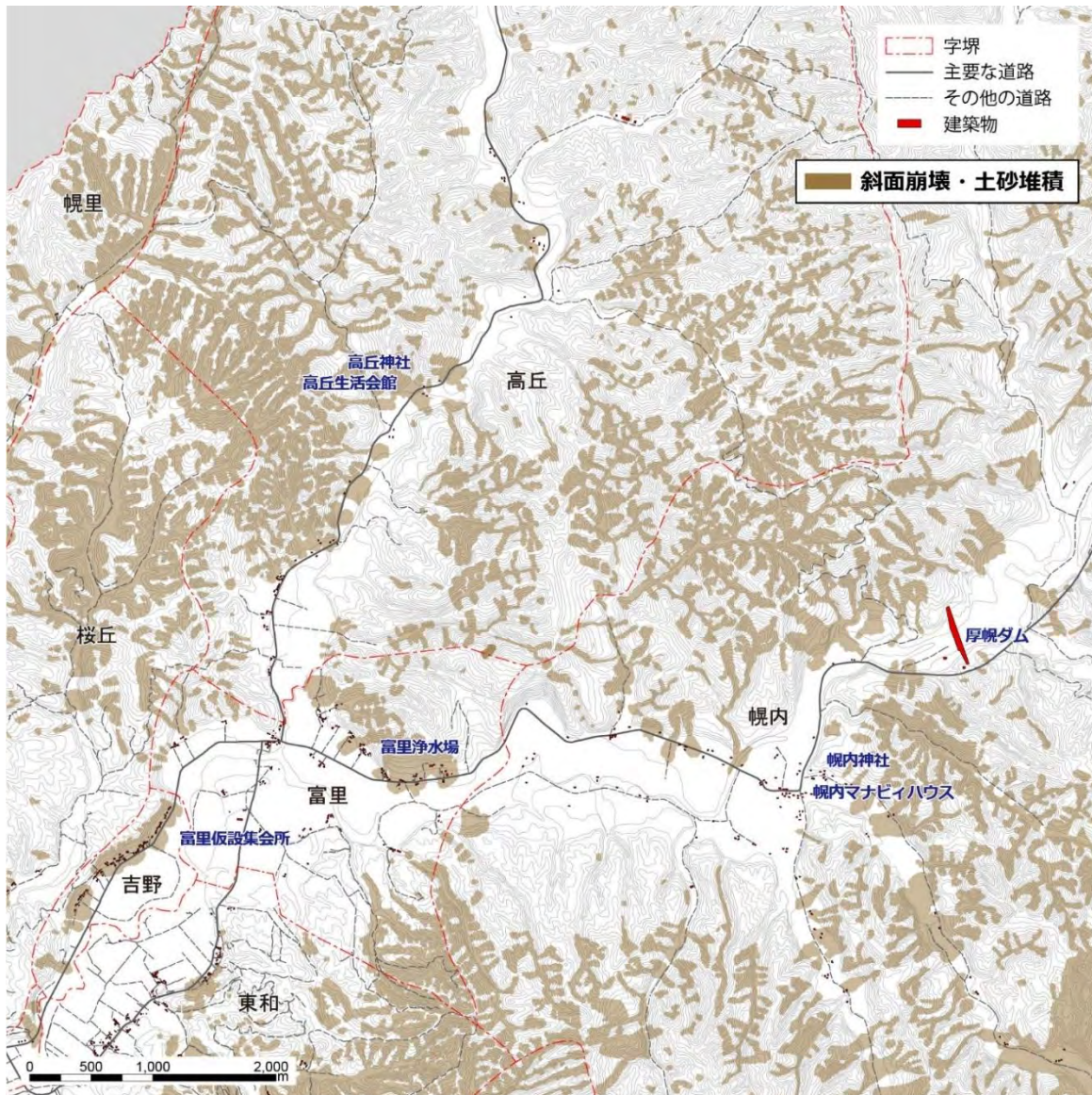
(4) 上位計画での位置づけ

第4次厚真町総合計画における土地利用の基本方針では、北部4地区は「豊かな森林地域（森林整備地域）」および「輝く田園地域（農業振興地域）」に位置づけられています。また、町の活性化を図る土地利用として幌内地区では「厚真ダム・厚幌ダム周辺整備」、高丘地区では「大型開発跡地整備」を推進することが位置づけられています。

2-2 被災状況

本震災では最大震度7を観測し、地震による揺れや山腹崩壊の土砂により、建物やインフラ、農地に大きな被害を受けました。また、幌内で4名、富里で4名、高丘で2名、吉野で19名、計29名の方が犠牲となり、その他重軽傷者を含め、多くの方が被害を受けました。仮設住宅等の入居世帯率についても、北部4地区は町全体と比較して高く、被害が甚大であることが見受けられます。

図表2-4 土砂崩壊区域の分布図（出典：国土地理院）



図表2-5 応急仮設住宅等の入居世帯数・入居世帯率※吉野地区除く（出典：厚真町統計データ）

字名	仮設住宅等の入居世帯数				世帯数 (震災前)	仮設住宅等の 入居世帯率
	応急仮設住宅 プレハブ住宅	応急仮設住宅 トレーラーハウス	借上型 仮設住宅	公営住宅等		
幌内	23	—	2	1	49	53.1%
富里	15	—	—	—	31	48.4%
高丘	12	—	1	—	16	81.3%
地区計	50	—	3	1	96	56.3%
町全体（最大）	127	11	18	27	2,181	8.4%

※トレーラーハウスは道・町設置分含む

(1) 住家被害状況

住家の全半壊率は、北部4地区全体で66.1%、字別にみると幌内で53.8%、富里で61.1%、高丘で77.8%、吉野で95.2%となっており、町全体の41.0%と比較し多くなっています。

また、納屋や物置など住家の付属建物の被害や井戸水等のインフラについても多くの被害が見られます。

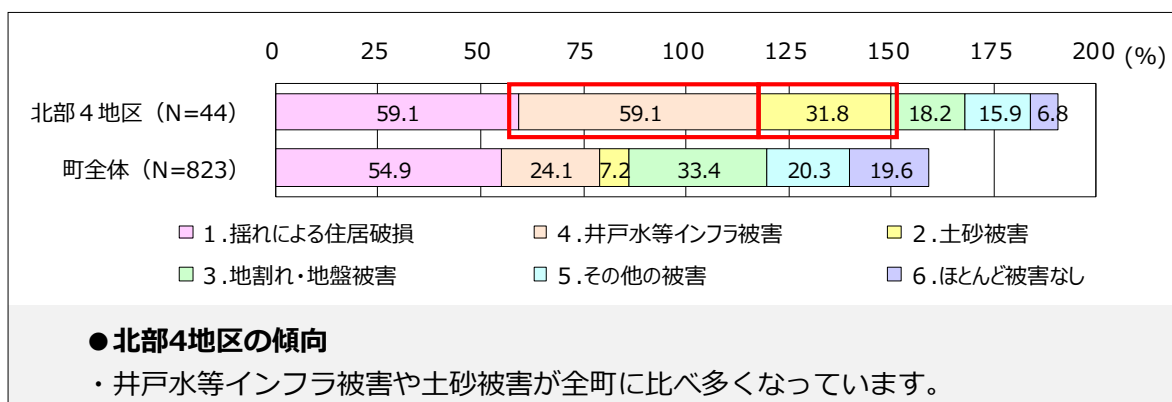
図表2-6 住宅の被害状況（住家の被害認定調査（令和元年9月30日時点））

判定 字名	全壊	大規模 半壊	半壊	一部損壊	無被害	合計	全半壊率 (※1)
幌内	12棟	3棟	13棟	19棟	5棟	52棟	53.8%
富里	11棟	2棟	9棟	13棟	1棟	36棟	61.1%
高丘	5棟	3棟	6棟	4棟	0棟	18棟	77.8%
吉野	20棟	0棟	0棟	1棟	0棟	21棟	95.2%
北部4地区	48棟	8棟	28棟	37棟	6棟	127棟	66.1%
町全体	233棟	70棟	262棟	1,082棟	195棟	1,082棟	52.2%

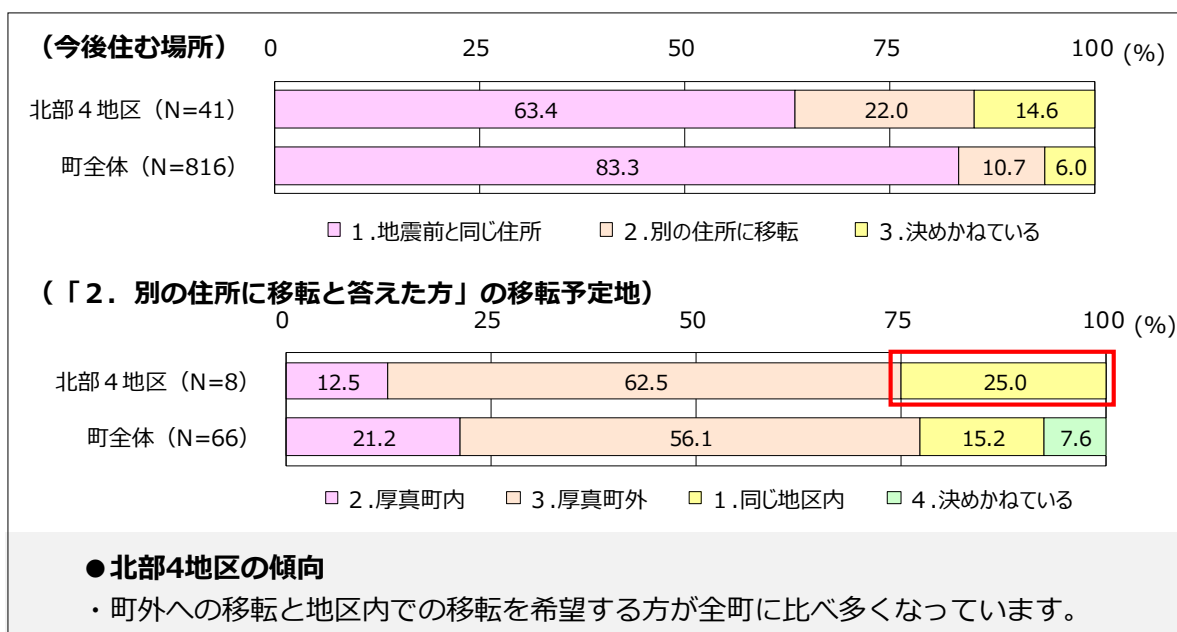
(※1) 全半壊率とは、住家数に対する全壊・大規模半壊・半壊の住家の割合。

図表2-7 住宅の被害状況（アンケート調査の結果）

※以下、N値は設問の回答者数を示す



図表2-8 今後住む場所・移転予定地（アンケート調査の結果）



(2) 公共施設等の被害状況

(建物・構造物被害)

建物・構造物の被害については、富里・高丘・吉野で集会施設が被災した他、神社、富里浄水場、厚真ダム、厚幌ダムが被災しました。

(インフラ被害)

道路については、山腹崩壊により北部地域への道路が寸断したことにより、孤立する集落、被災者が避難場所まで到達できないなどの状況が発生しました。

水道施設については、富里浄水場が被災したことで簡易上水道が断水しました。また、湧水や地下水を利用する世帯についても、一部で地盤変動による地下水脈の寸断や水質低下が起こり、取水できなくなる状況が確認されました。

(河川被害)

幌内では厚真川や、日高幌内川周辺の大規模な山腹崩壊により河道閉塞が発生し、湛水池が形成されるなどの被害を受けました。

図表 2 - 9 公共施設等の被害状況

幌内	富里	高丘	吉野
<ul style="list-style-type: none"> ・厚真ダムの損傷 ・幌内神社の損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者生活自立支援センター、富里浄水場の一部流出 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活会館の損傷、断水 ・高丘神社の損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活会館の流出 ・吉野神社の流出



富里浄水場の被害



高丘神社の被害



上幌内早来停車場線の閉塞（富里浄水場付近）
（国土交通省提供）



厚真川の河道閉塞（国土交通省提供）

(3) 農地・農業用施設の被害状況

農地・農業用施設の被害については、水田や畑に土砂が流入した他、水田や畑の亀裂や段差、農業用水路の被害が発生し、震災翌年の作付けができない農家が見られました。また、納屋や倉庫の被害により、格納していた農業用機械に被害を受けた農家も多く見られました。

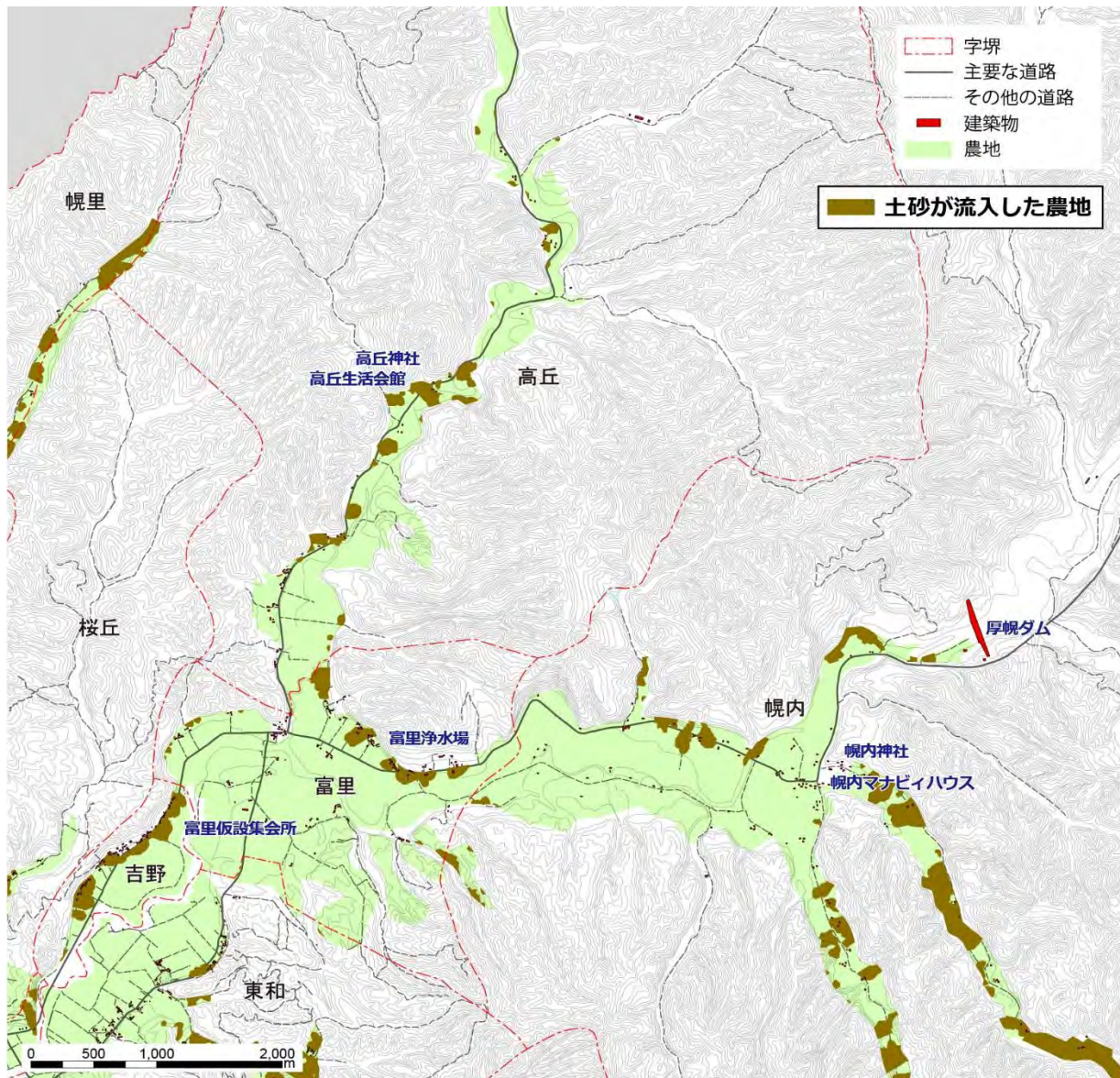


農地への土砂の流入（幌内）
（陸上自衛隊第7特科連隊提供）



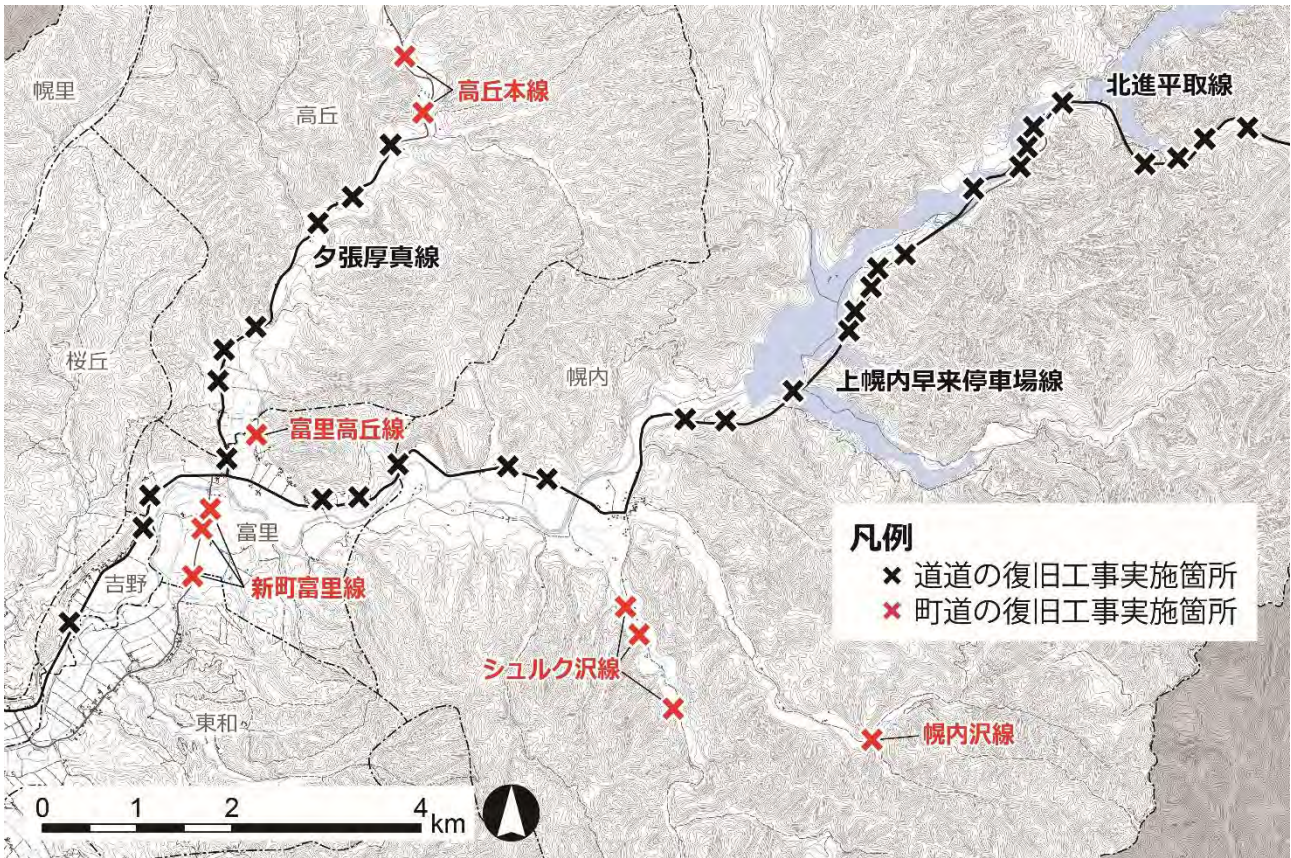
農業用水路の被害

図表2-10 土砂が流入した農地の分布図（出典：国土地理院）



2-3 復旧事業の実施箇所

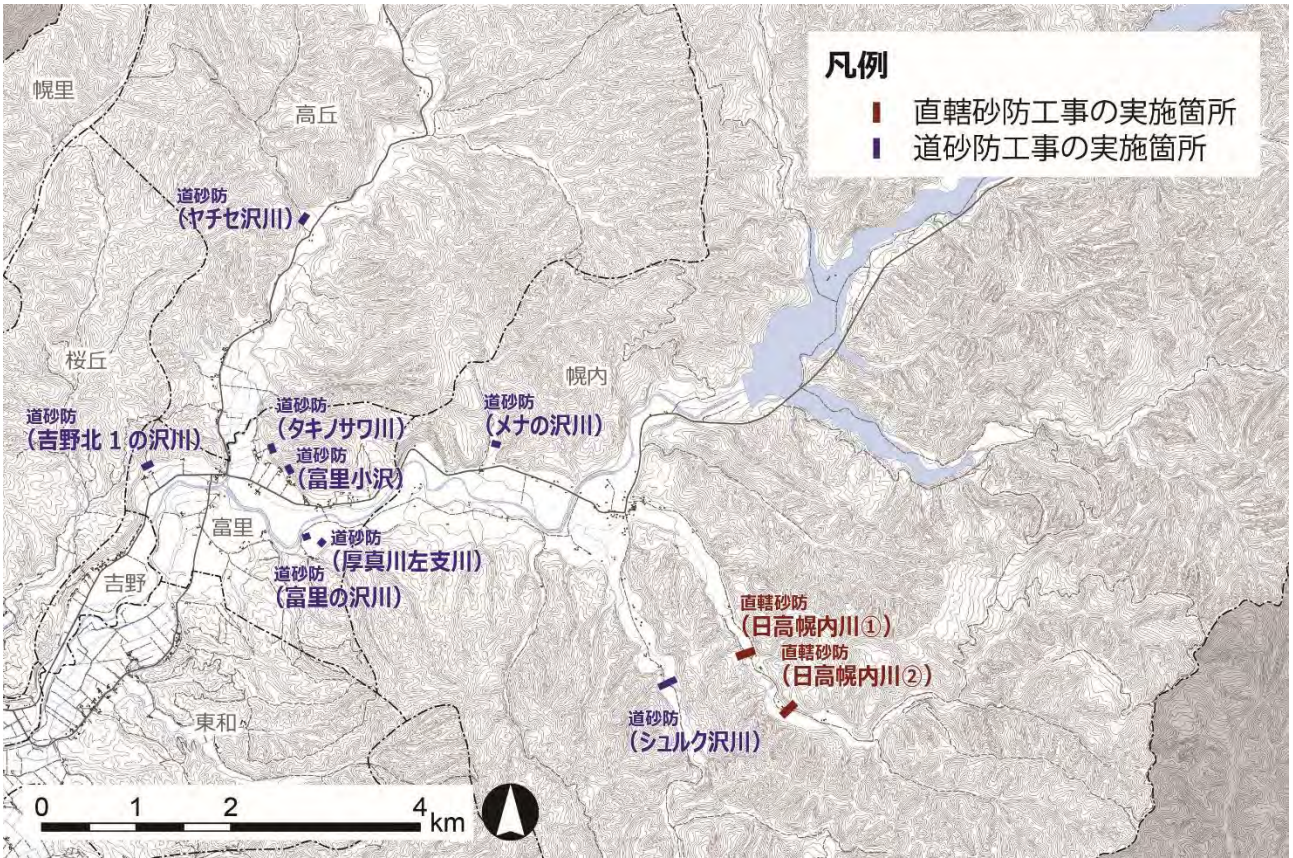
図表 2-1-1 道路復旧工事の実施箇所



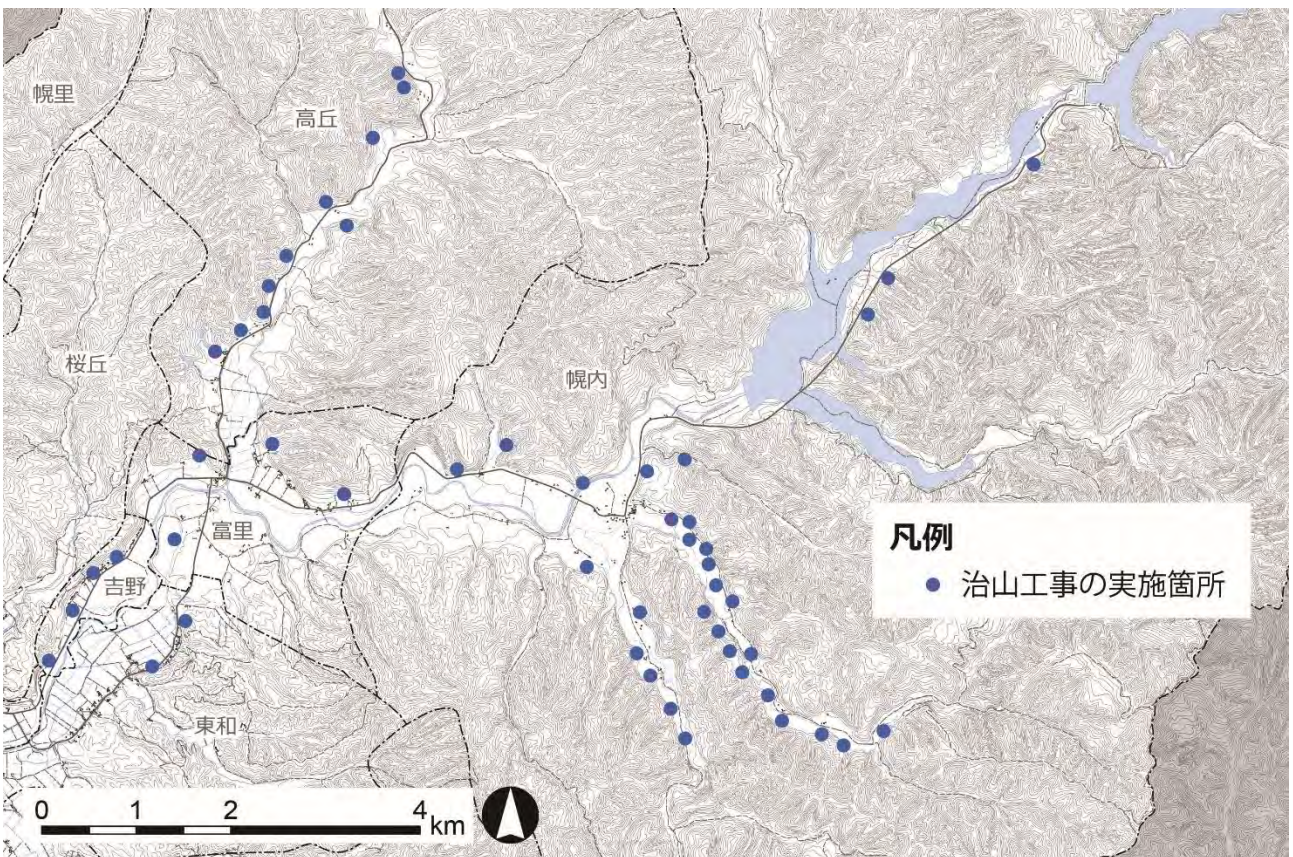
図表 2-1-2 河川復旧工事の実施箇所



図表 2 - 1 3 砂防工事の実施箇所



図表 2 - 1 4 治山工事の実施箇所



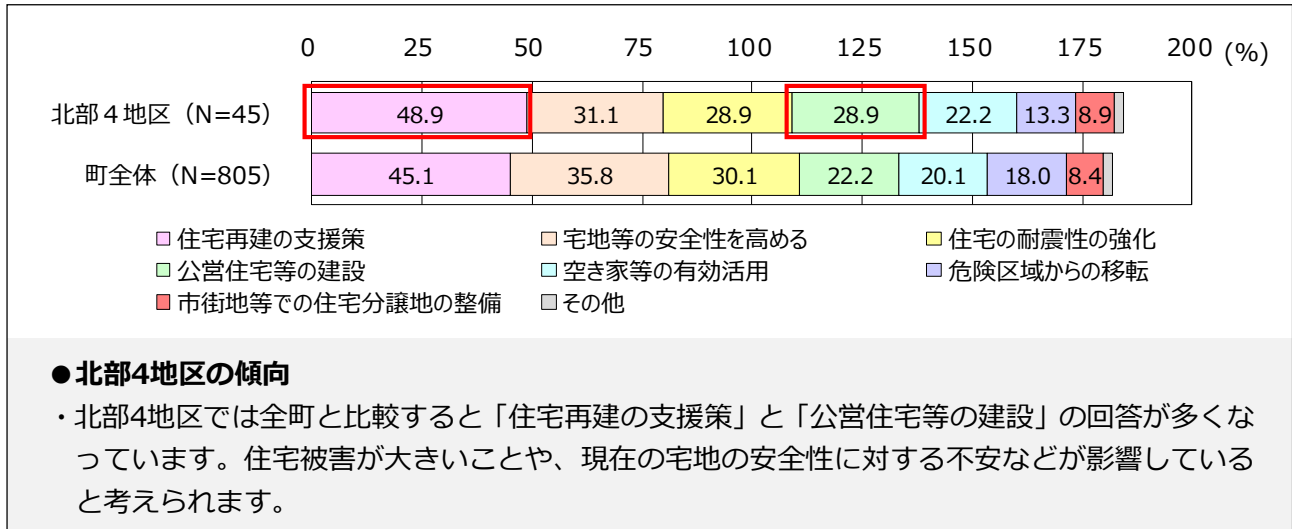
2-4 住民意向（住民アンケートより）

令和元年7月から8月にかけて町内を対象に実施した「復旧・復興に向けたアンケート調査」の結果から、北部4地区の回答状況を整理した結果は次のとおりです。

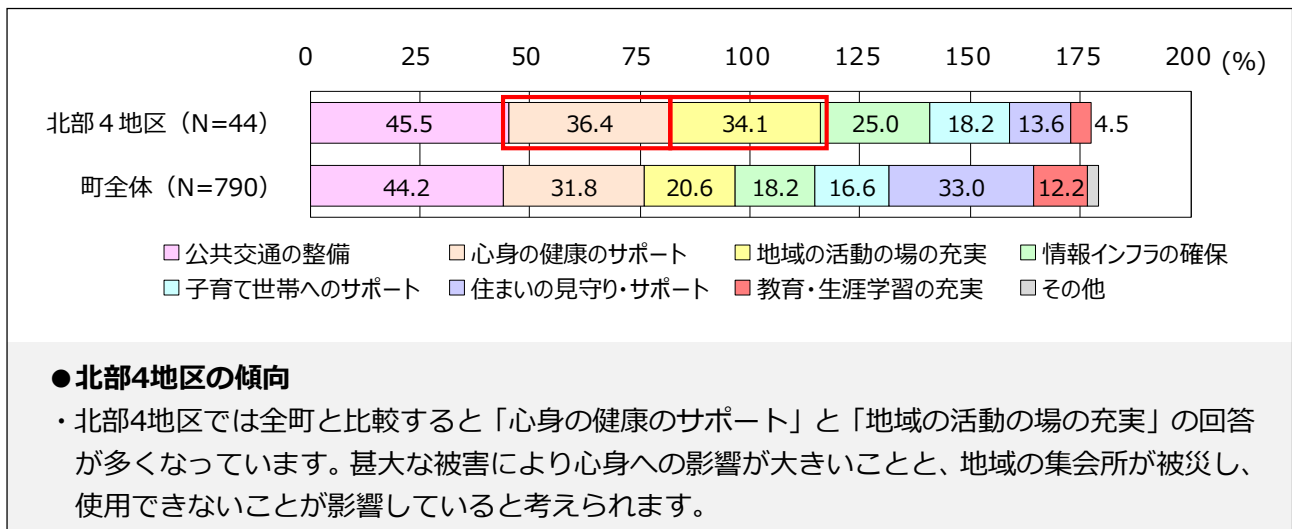
※アンケート回答状況の詳細については「厚真町復旧・復興計画第1期別冊 [参考資料]」に記載しています。

※以下、グラフ内のN値は、各設問に対する北部4地区および町全体の回答者数を示しています。

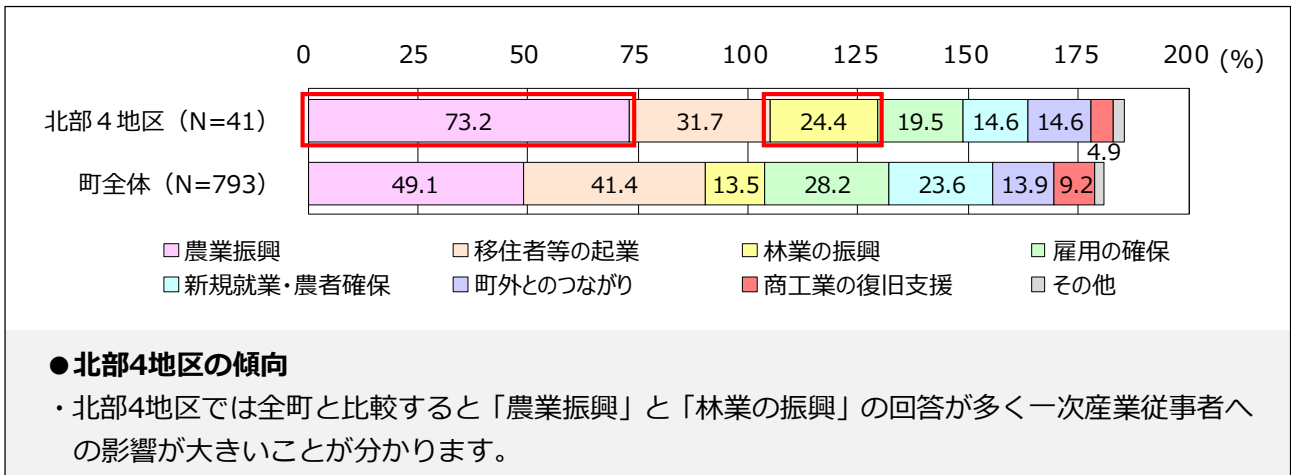
図表2-15 住まいの再建について



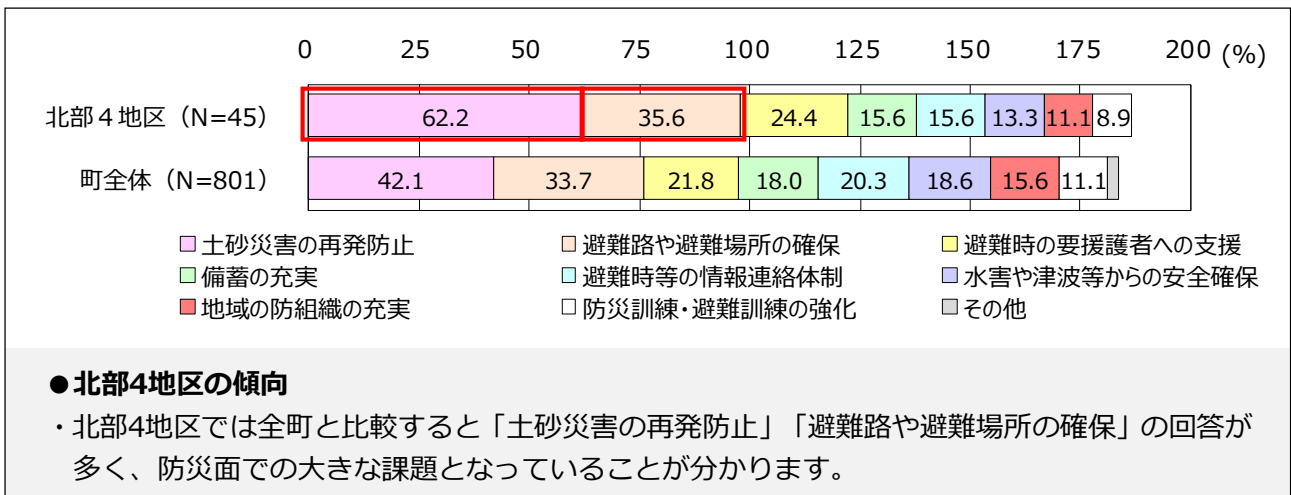
図表2-16 暮らしの再生で重要な点について



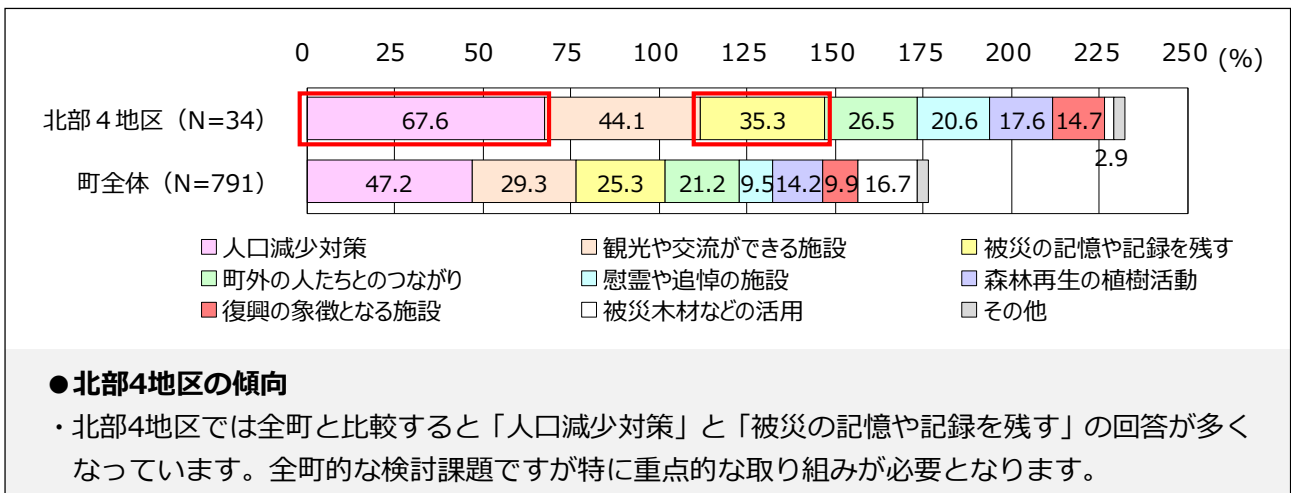
図表 2 - 17 しごとの再生で重要な点について



図表 2 - 18 安全なまちづくりで重要な点について



図表 2 - 19 町の復興への取り組み



2-5 地域再生に向けた課題

地区の概要や被災状況、復旧事業の実施状況、住民アンケートによる住民意向を踏まえ、北部4地区の地域再生に向けた課題および対応の検討状況は次のとおりです。

- 本震災により、北部地区は特に甚大な被害を受け、山腹崩壊による人的被害や、道路が寸断し孤立する集落、避難場所まで到達できないなどの状況が発生しました。このため、**安全な住宅や宅地、避難路の整備、避難所の整備などを含めた土地利用の見直しが必要です。**
- 住宅については、甚大な被害により全半壊した住宅も多く、再建が困難な方も見られます。**従前の地区または近隣で住み続けられる住宅の整備についても検討が必要です。**
- 甚大な被害により、心身の不調を感じる方も多いため、引き続き実態把握を行うとともに心身の健康の維持・増進に向けた支援が必要となります。
- 農林業の従事者が多く被災していることから、仕事（なりわい）の再生には、生産基盤の復旧が急務となります。
- 集会所の被災により、地域活動の拠点となる場所が失われており、**コミュニティの拠点となる施設や場所が求められています。**
- 町内でも特に被害が大きい地区であり、慰霊施設や記憶や記録の伝承に関する取り組みについても、全町での取り組みと併せて、地区単位でも検討する必要があります。
- 集落外への移転再建により、人口減少が加速していることから、**コミュニティの持続に向けた取り組みの検討**も必要です。

本計画では上記課題のうち、特に太字の項目について中心的に記載します。その他の課題については全町的な課題として復旧・復興計画第2期に記載するとともに、引き続き検討を進め、具体的な取り組みについて復旧・復興計画第3期および本計画の更新時に記載します。

3. 北部4地区の地域再生方針

復旧・復興計画に記載した町全体で実施する施策に加えて、北部4地区の現状と課題を踏まえたうえで実施する地域再生に向けた基本方針と実施する施策について下記にまとめます。

地域で住み続けられる住まいの確保

- ・・・地域特性や一人ひとりの再建意向を尊重し、住み慣れた地域でこれからも安心して住み続けられる住まいを確保するとともに、すべての方が住まい再建の目途を立てられるように個別での対応を中心に支援していきます。

【重点施策】 集落内における町有住宅の建設

これまでと同じ集落内での住み替え希望者がいる集落に対しては、小規模住宅地区改良事業を活用し、山際等から離れた安全性の高い場所に、町有住宅（小規模改良住宅）の建設を行います。

災害に強い、安全・安心な生活基盤づくり

- ・・・復旧事業による山腹の安全対策と合わせて、北部4地区から厚真市街地に至る道路の機能強化を行い、災害に強い安全・安心な道路を確保します。また、災害時の避難場所や避難所の見直しを行います。

【重点施策】 道路の複線化と改善

本震災で北部地区の主要道路が流出土砂により閉塞した教訓を踏まえ、都市防災総合推進事業を活用し道路の複線化を図り、災害時の避難路を確保します。併せて避難路の安全性を確保するため、道路幅の拡幅などの必要な整備を検討します。

災害時の避難施設整備とコミュニティの持続・発展に向けた支援

- ・・・本震災により、地区の一時避難所となる各施設が被災し使用できなくなった状況を踏まえ、災害時に避難可能な施設の再建を実施します。あわせて各地区を取り巻く状況の変化を考慮し、コミュニティの持続・発展に向けた拠点整備と支援を実施します。

【重点施策】 避難所の再建

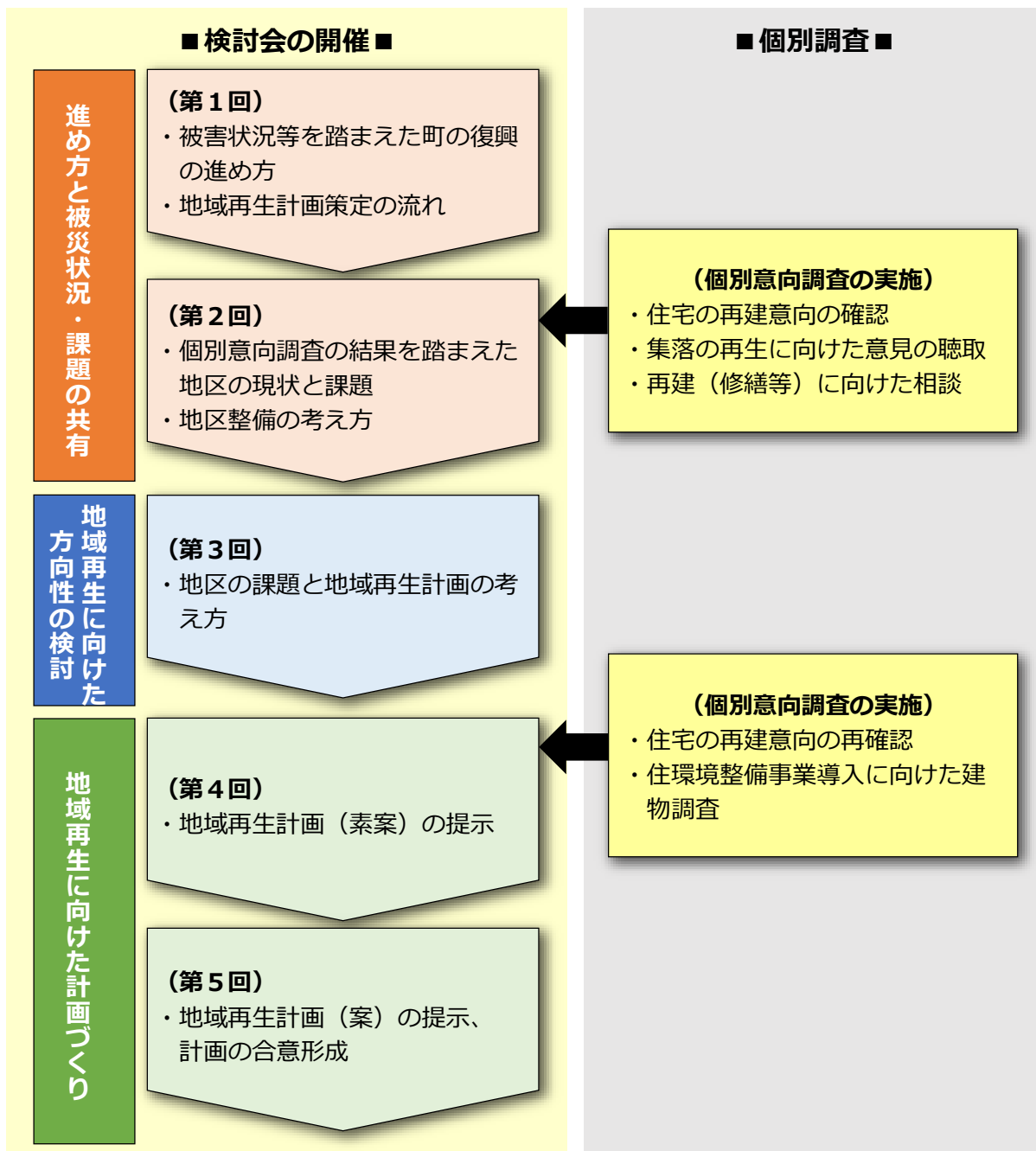
富里、高丘、吉野などの周辺地区からの一時避難が可能となる施設を整備します。この施設と幌内マナビィハウスを北部地域の防災およびコミュニティの拠点施設として位置づけ、周辺環境の整備を実施します。

4. エリア別再生計画

4-1 本計画の策定プロセス

幌内、富里、高丘、吉野に分け、集落別に地域再生計画の策定に向けた検討会を開催しました。また、検討会の開催と並行して個別意向調査を実施し、住宅の再建意向の確認や再建に向けた困りごと等の聴取などを行いながら、本計画の策定を行いました。

図表4-1 本計画の策定プロセス

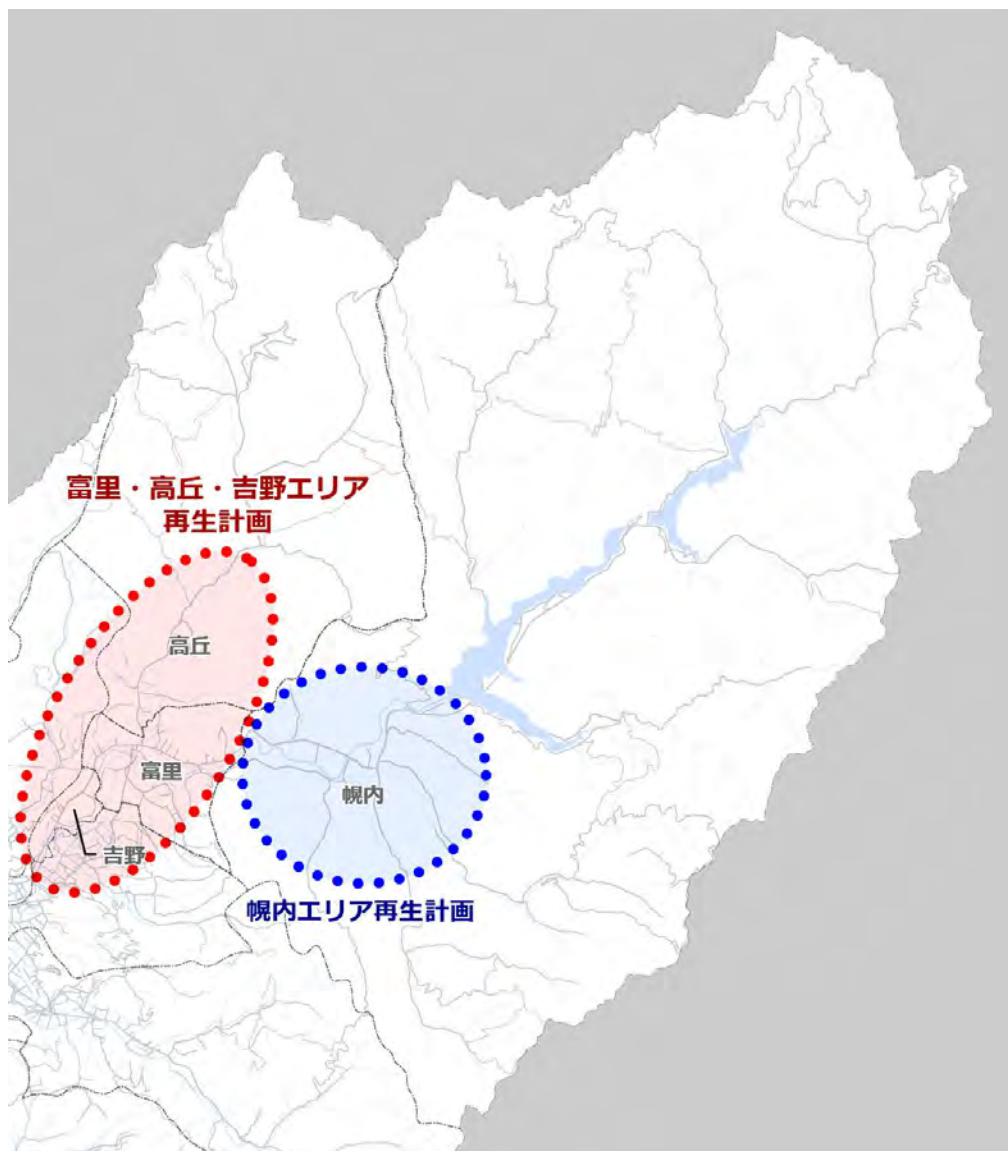


※各集落の状況に応じて、策定プロセスは多少異なっています。

4-2 再生計画のエリア区分

各集落で検討を進める中で、富里、高丘、吉野については、共通する課題も見受けられることから、一体的なエリアとして再生計画を策定する方針とし、「幌内エリア」と「富里・高丘・吉野エリア」に分けて「再生計画」を取りまとめました。

図表4-2 再生計画のエリア区分



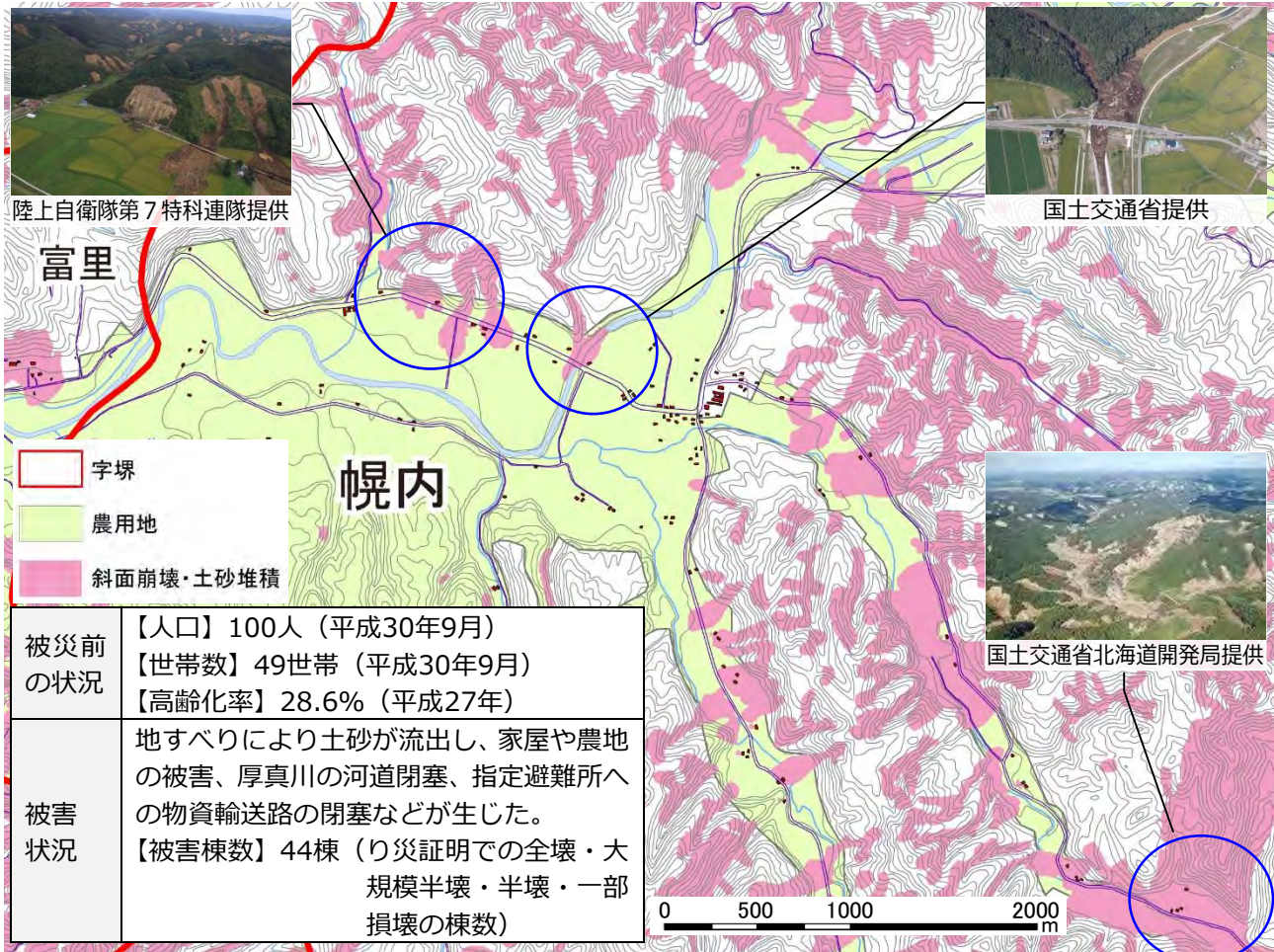
4-3 幌内エリア再生計画

(1) 幌内地区での検討経過

1) 地区の被害状況

第1回検討会では、被災前の状況や地区の被害状況について確認しました。

図表4-3 地区の被害状況



2) 住まいの再建意向

第1回検討会の後、個別意向調査を実施し、合計38世帯から住まいの再建意向を確認しました。幌内では3割強の方が地区外での再建を望んでいます。

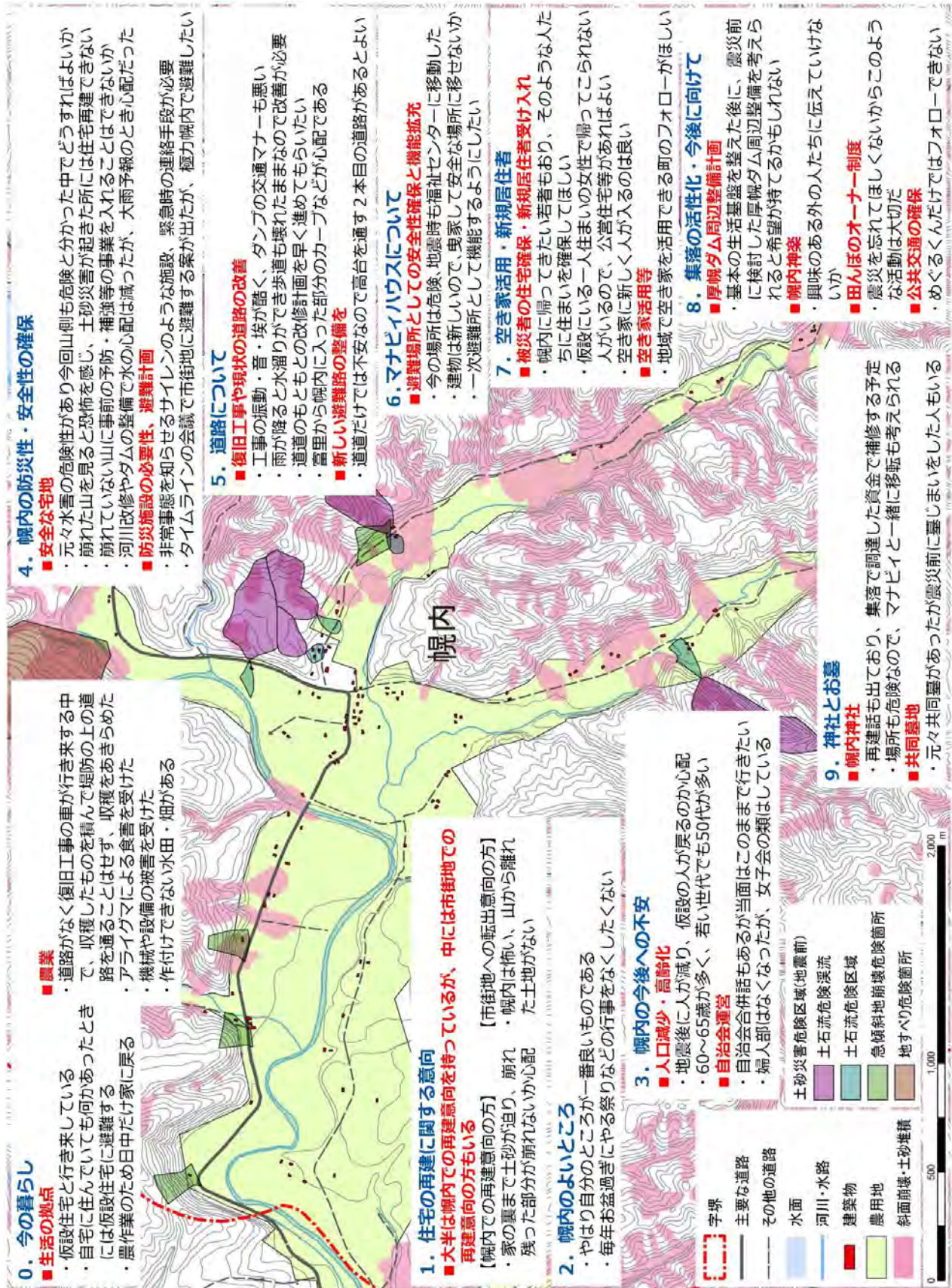
図表4-4 住宅の再建意向（令和元年11月時点）

再建場所	再建手法	世帯数	
地区内での再建	現状維持又は修繕	22世帯	25世帯
	現地建て替え	3世帯	
地区外での再建	地区外での新築	7世帯	13世帯
	災害公営・公営住宅	6世帯	

3) 地区の現状や課題の整理

第2回検討会では、個別意向調査の結果を踏まえ、地区の現状や課題等について共有しました。

図表4-5 地区の現状・課題等



4) 住宅や公共施設等の整備内容の検討

第3回検討会では、第2回までの検討会の意見を踏まえ、地域再生計画の考え方を示し、住宅や公共施設等の整備内容の検討を行いました。

図表4-6 地区の課題・取組方針

検討会・個別意向調査での意見	地区再生計画の考え方	検討課題	今後の取組方針
<p>1. 住まいの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 住宅・宅地 <ul style="list-style-type: none"> ・施設に入所した人も腕内に住みたい意向をもっていた ・シユルコ沢に住んでいた人の中に腕内に戻りたい人がいる ・元の土地と等価で交換することはできるか ・中心部に集まって住むことは良い ・公営住宅のような住まいが良い 	<p>①腕内に住みたい人が住み続けられるための住宅の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模改良住宅（公営住宅）の整備 <p>②安全な場所での再建のための宅地の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕内市街地に移転用宅地を確保 ・土砂崩れ等の心配のある宅地は、移転を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な小規模改良住宅、移転用宅地の戸数の把握 ● 旧腕内小学校用地の利用方法 ・厚幌ダム周辺整備計画（パークゴルフ場計画等）との調整 ・復旧工事との関連 	
<p>2. 地区の安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 道路①-上腕内早来停車場線 <ul style="list-style-type: none"> ・大きくカーブする部分の線形を直線にできないか ・センターラインの明示や凹凸状態の改善 ◆ 道路②-厚真側左岸道路 <ul style="list-style-type: none"> ・左岸の道路は全体的に通行するのが怖い ・狭路かつ坂道で特に困難な箇所、直角に曲がる部分の改善 ・全部を拡幅せずとも部分的に待避所があれば良い ・堤防部分は水位が上がると通行が困難 ・現道は水害の危険性があるので山側に道路を新設しては ・道路と左岸道路の交点の傾斜を改善 ・隣接する畜里地区も一緒に考える必要がある 	<p>③ 道路(上腕内早来停車場線)の安全性・利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の大きなカーブ箇所の線形改良の検討 ・舗装状態の改善の検討 <p>④ 道路のバイパス的避難路となる厚真川左岸道路の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭路、急勾配、曲がりにくい交差点箇所の改良 ・一定間隔での待避所スペースの確保 ・腕内市街地、畜里地区との接続道路位置等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 厚真側左岸道路の整備内容 <ul style="list-style-type: none"> ・幅員、カーブ・交差点・勾配の改善箇所 ・ルート（どこで腕内市街地に接続するか） 	<p>「地域再生計画(復興事業編)」として住宅、公共施設等の整備内容を、早めに決め、復興事業として実施</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 集会所/避難施設-腕内マナビハウス <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに避難・救助するための仕組みが必要 ・ヘリポートを整備できないか ・集会所以外にもヘリポートの代用となる広場があると良い ・子ども、高齢者の視点にも立って1週間程度生活できる備蓄がある方が良いのではないかと 	<p>⑤ マナビハウスの避難所機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機等と接続できる非常用電源設備 ・備蓄の充実（多様な生活者の視点に立った検討） ・ヘリポートに活用できるオープンスペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● マナビハウスの機能拡充内容 <ul style="list-style-type: none"> ・設備、使い方の検討 ・備蓄物や倉庫の必要性等 ・集落内のヘリポートとして利用できる空間 	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 防災計画 <ul style="list-style-type: none"> ・被害を最小限にするためのソフト対策 ・危険な状況を迅速に知らせる方法が必要 	<p>⑥ 避難計画と施設改善の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在検討している避難計画等と施設改善計画の連携 ・避難時の要配慮者等を配慮した避難所機能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難、避難時の要配慮者計画と道路・避難所整備の整合性確保 	
<p>3. 集落の持続的発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 農業の復興 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の営農継続のための支援が必要 ・住宅と農地の確保をあわせて考える必要がある ・農地自体が少ない、新しい農地を整備できないか 	<p>【町全体で、行政・町民・関係団体を含めて検討】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域と行政、農業団体等の連携による営農環境対策 ②「田んぼのオーナー」事業の持続的実施 ③厚幌ダム周辺整備計画の推進 ④地域外への発信と若い世代への伝統芸能の継承 ⑤若い人が移り住める環境整備 ・空き家を活用するための支援制度等の検討 ⑥公共交通の利便性の向上に向けた仕組みづくり 		
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 観光・交流 <ul style="list-style-type: none"> ・観光の視点での農を活かした取り組み ・厚幌ダム周辺整備をどのように生かすか ◆ コミュニティ・文化 <ul style="list-style-type: none"> ・腕内神楽の保存・継承 			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 若い人の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・若い人の移住を受け入れる地域の土壌がある ・地区・コミュニティの存続のために担い手をどうするか ・改修して使えそうな空き家があるが本当に使えるのか 			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公共交通 <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が良くなるだけでなく年を取って住み続けられなくなる・予約せずに気軽に乗れる交通手段があると良い 			<p>地域の持続的発展に向けた課題として、町全体や関係団体、自治会などで継続的に検討していく</p> <p>※具体的に検討を継続する場合は、町から支援</p>

(2) 幌内エリア再生計画

以上を踏まえ、幌内エリアの再生計画を取りまとめました。

幌内エリア再生計画

幌内での安全で安心な住まい・暮らしの確保や、既存のパークゴルフ場等の整備計画の推進と併せて、**幌内マナビィハウスや幌内神社が立地する地区中心部の機能再編を図り、地区のコミュニティの核となる区域を形成する。**

1) 住まいの再建

- 住まいの再建について、自力再建は困難ではあるが今後も幌内での居留意向を持つ方に対して、幌内中心部への住み替えを提案する。
- 住み替え先としては、町有地（旧幌内小学校跡地）周辺に、以下の町有住宅（小規模改良住宅）の建設やトレーラーハウスの移設を行う。

■ 町有住宅（小規模改良住宅）の建設

【住居形態】 戸建・平屋形式

【建設戸数】 1戸

※建設や移設に際しては、今後整備予定のパークゴルフ場の機能が損なわれない形で行う。

■ トレーラーハウスの移設

【移設戸数】 最大2戸

- 個別相談を引き続き実施し、希望の再建手法を実現できるよう支援を継続する。

2) 道路の整備

- 本震災で道道が土砂で閉塞したことを受け、今後の災害に備えて、既存町道の改善と厚真市街地に至る道路の複線化（厚真川左岸道路の整備）を行い、安全な避難路を確保する。

【整備予定】

- ・ 舗装部分の拡幅（1.5車線程度）+ 待避所の整備、急勾配の緩和
- ・ 富里の未接続区間は道路の新設を検討中

- その他、町道や道道に関する住民意向

【町道の改善についての住民意向】

- ・ 見通しの悪い箇所に対するカーブミラーの設置
- ・ 冬場の道路の雪解けの改善

【道道の改善についての住民意向】

- ・ マナビィハウス及びパークゴルフ場計画予定地前面の急カーブの改善
- ・ 街灯や防犯灯の設置
- ・ センターラインの明示
- ・ 路面の凹凸の改善

3) 集会所の充実

- 幌内マナビィハウスについては、当面は現建物を使用していくが、避難施設等のあり方、立地については継続して検討していく。
- 今後の災害に備えて、幌内マナビィハウスの避難所機能の充実や周辺の緊急ヘリポート機能の確保、地区内での避難計画の策定などを進め、ハードとソフト両面から避難できる体制を構築する。

今後の検討課題

1) 地区中心部整備に向けた取り組み

- 既存のマナビィハウスや農業用倉庫、パークゴルフ場の計画（下図）との関係性を考慮しながら、小規模改良住宅の具体的な配置計画の検討が必要となります。

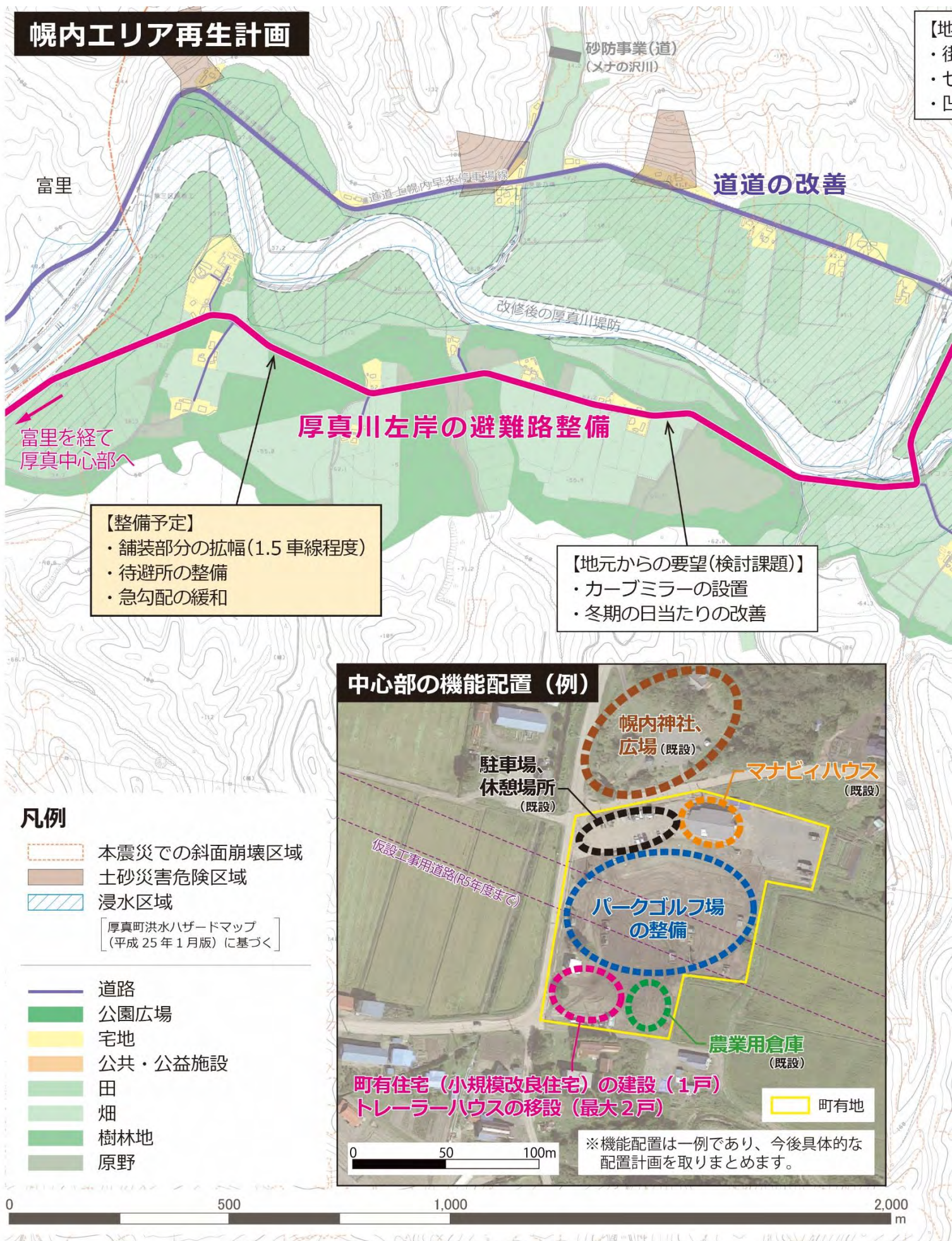
図4-7 パークゴルフ場や道道の急カーブ改善の計画（震災前の幌内地区環境整備事業計画より抜粋）



2) 地区活性化等に向けた取り組み

- 復旧工事が引き続き実施される地区であり、工事車両の通行も非常に多いことから、定期的な情報交換を実施し、安全性の確保に努めます。
- 集落の持続や発展に向けて必要な取り組み（例えば、若い世代の営農継続の支援や、震災の記憶の継承、観光拠点での農を活用した取り組み、コミュニティ活動の維持、伝統文化の継承の取り組み等）について、集落の課題やニーズに応じて検討が必要と考えられます。
- 災害の種類に応じた避難所の位置づけや必要機能の確保、安否確認、救出救護、避難などの地域で助け合える体制づくりなど、今後の災害に備えた取り組みの検討が必要と考えられます。

図4-8 幌内エリア再生計画



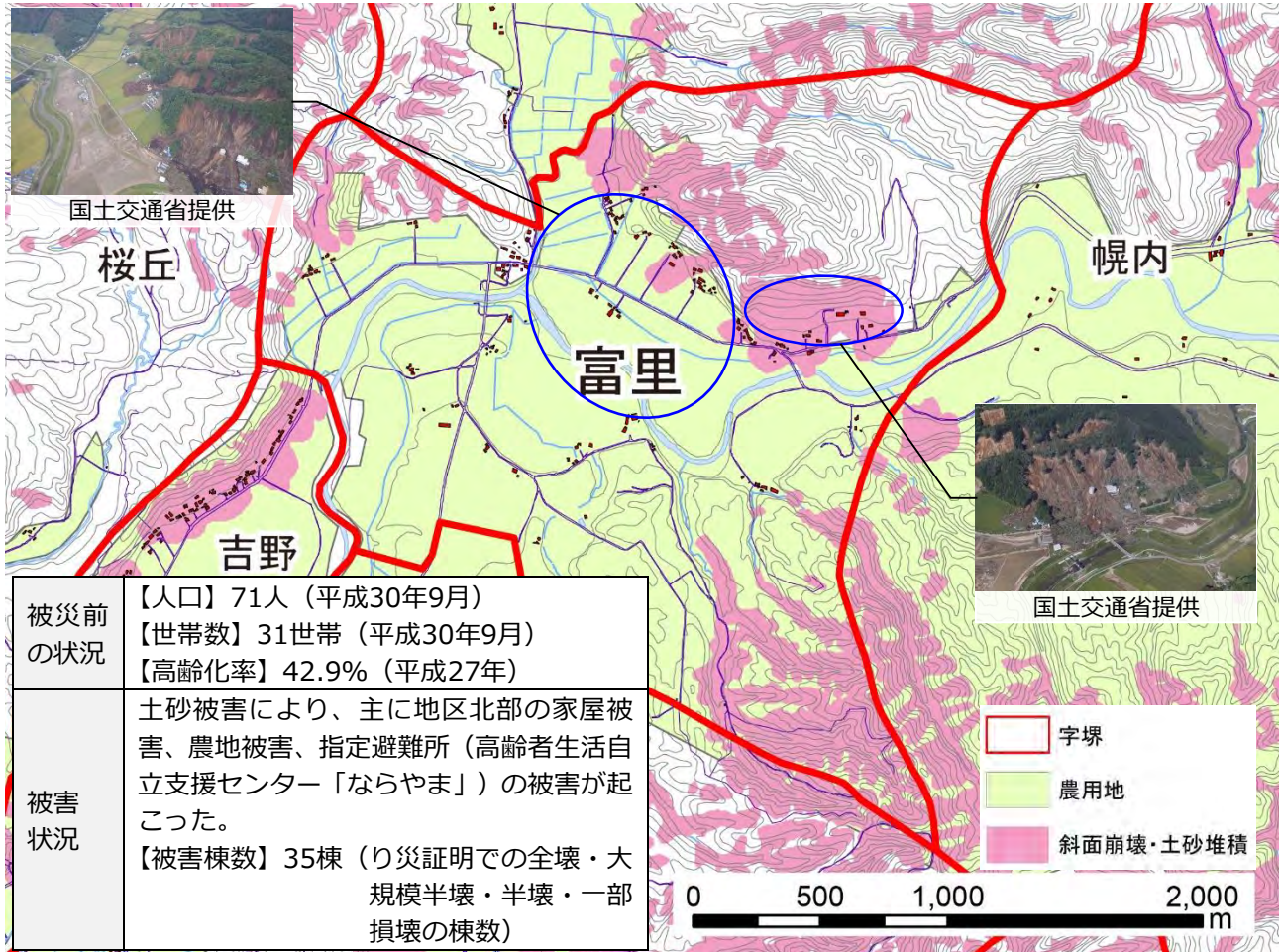
4-4 富里・高丘・吉野エリア再生計画

(1) 富里地区での検討経過

1) 地区の被害状況

第1回検討会では、被災前の状況や地区の被害状況について確認しました。

図表4-9 地区の被害状況



2) 住まいの再建意向

第1回および第3回検討会の後、個別意向調査の実施し、合計24世帯から住まいの再建意向を確認しました。富里では3割弱の方が地区外での再建を望んでいます。

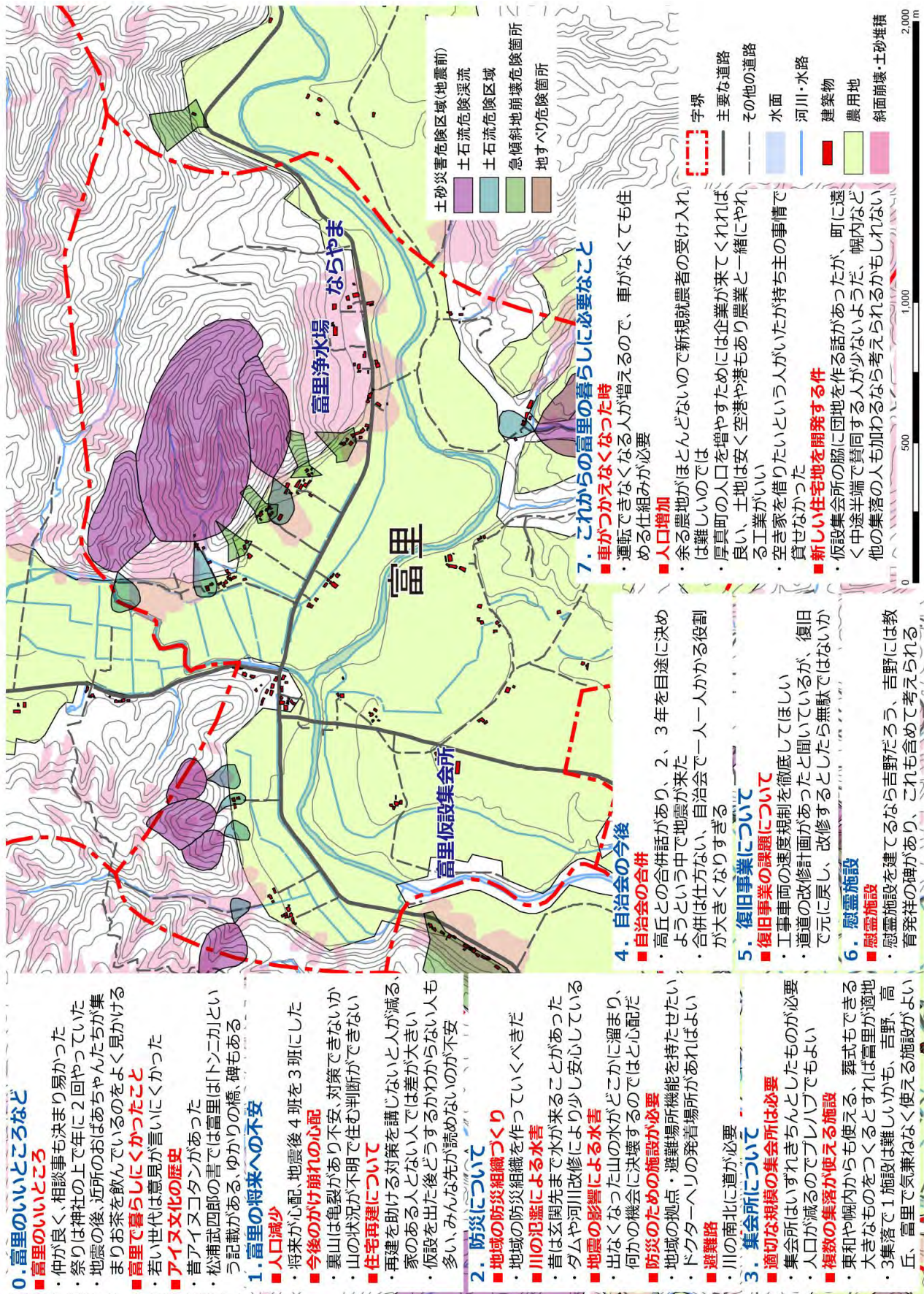
図表4-10 住宅の再建意向（令和元年11月時点）

再建場所	再建手法	世帯数	
地区内再建	現状維持又は修繕	16世帯	17世帯
	現地建替え	1世帯	
地区外再建	移転新築等	2世帯	5世帯
	災害公営・公営住宅	3世帯	
未定		2世帯	

3) 地区の現状や課題の整理

第2回検討会では、個別意向調査の結果を踏まえ、地区の現状や課題等について共有しました。

図表4-11 地区の現状・課題等



4) 住宅や公共施設等の整備内容の検討

第3回検討会では、第2回までの検討会の意見を踏まえ、地域再生計画の考え方を示し、住宅や公共施設等の整備内容の検討を行いました。

図表4-12 地区の課題・取組方針

検討会・個別意向調査での意見	地域再生計画の考え方	検討課題	今後の取組方針
<p>1. 住まいの確保</p> <p>◆住宅・宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道道上幌内早来停車場線の北側の山裾の宅地は、いつ崩れるか不安で、移転する人もいる ・移転する人が畜りに留まってももらえらるとよい、そのためには町有住宅もあってほしい ・住宅地を造るなら今の仮設集会所がある高台が安全で、電気も水道も通っている、集会所と合わせた住宅団地がいい ・住宅地を造るのはよいが、他地区からの移転は少ないだろう 	<p>①道道上幌内早来停車場線北側の山裾の宅地の安全性確保：災害危険区域の指定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性が担保できない場合は、災害危険区域への指定の検討も ・ただし、個人の意向を尊重させたい <p>②畜りに住みたい人が住み続けられるための住宅の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模改良住宅（公営住宅）の整備、移転用宅地の確保（仮設集会所周辺） 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害危険区域の設定をどうするか <ul style="list-style-type: none"> ・仮設集会所周辺に新たな移転用宅地を用意 ・山裾を選べて所有地内での移転も含め検討 ●必要な小規模改良住宅、移転用宅地の戸数の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の意向調査等の実施 	<p>「地域再生計画(復興事業編)」として住宅、公共施設等の整備内容を、早めめに決め、復興事業として実施</p>
<p>2. 地区の安全性の確保</p> <p>◆道路①-厚真川左岸道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町中心部、幌内の面方向へ行ける避難路が必要（左岸に町道を造る話が、昔あった） ・左岸線は（川の近くだと）浸水で通れなくなることでも考えられ、厚幌ダムの決壊も想定し、山側に道路をつくってはどうか ・現在の道路は、狭隘、冬には登れない急坂があるので、その部分を直すべき <p>◆道路②-高丘入り口部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高丘方面の川との合流点が危険 ・高丘の入り口は、狭隘で、坂道も急で崖に沿っており、次に災害が来ると高丘集落が孤立する（他地区で出た意見） <p>◆集会所/避難施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の再編と並行して進めて集会所を検討していくのではないが、それに伴って規模や機能を決めていけばよい ・集会所は人が集まりやすく、すぐに避難できる場所がよい ・集会所は仮設集会所のある高台の安全な場所に計画したい ・少し集まりにくい、厚真川が決壊すると畜里橋が通れなくなり、集会所に辿り着けなくなるおそれがある ・災害時、まずは畜里で避難生活が行えらるとよい ・木で造るなど、特徴的で心がなごむものがない 	<p>③厚真川左岸の道路のバイパスの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害からの位置の安全性を考慮してルートを検討 ・幅員、急勾配等の改良 <p>④高丘入り口道路の幅員と勾配の改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅員、急勾配等の箇所の改良 ・地形的制約から新たなルートも検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●厚真川左岸道路の整備内容 <ul style="list-style-type: none"> ・幅員、カーブ・交差点・勾配の改善箇所 ・ルート（どこで幌内市街地に接続するか） ●高丘入り口道路 <ul style="list-style-type: none"> ・幅員、カーブ・交差点・勾配の改善箇所、ルート 	
<p>◆防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の安否確認等、自治会組織で動く体制づくりが必要 ・河川改修は完了しているのでやや安心している ・畜りに留まれない場合に、市街地への避難を考える、二段階の体制づくりが望ましいのではないかと ・東和を抜けて市街地までたどり着けるか不安 <p>3. 集落の持続的発展</p> <p>◆農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅とともに、農業の復興も早くすべき ・高齢なので、今後長く農業を続けられなくなると、地区に住む人に農地を譲ることも考えられる <p>◆コミュニティ・文化・暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に、靴下やパンツを売っている店がない ・移動販売を農協の穂別支所がトラックでやっている 	<p>⑤集会所機能の有する避難所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の確保、どのくらいの敷地が必要か ・設備、使い方の検討 ・隣接して整備をする小規模改良住宅（公営住宅）や宅地と連携した計画検討 ・避難所として過ごせる空間、備蓄物の倉庫等 <p>⑥避難計画と施設改善の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在検討している避難計画等と施設改善計画の連携 ・避難時の要配慮者等を配慮した避難所機能 	<ul style="list-style-type: none"> ●集会所機能の有する避難所 <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の確保、どのくらいの敷地が必要か ・設備、使い方の検討 ・隣接して整備をする小規模改良住宅（公営住宅）や宅地と連携した計画検討 ・避難所として過ごせる空間、備蓄物の倉庫等 ●避難、避難時の要配慮者計画と道路・避難所整備の整合性確保 	<p>地域の持続的発展に向けた課題として、町全体や関係団体、自治会などで継続的に検討していく</p> <p>※具体的に検討を継続する場合は、町から支援</p>
	<p>【町全体で、行政・町民・関係団体を含めて検討】(他地区で出た意見も含めて)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域と行政、農業団体等の連携による営農環境対策 (2) 若い人が移り住める環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用するための支援制度等の検討 (3) 公共交通の利便性の向上に向けた仕組みづくり (4) ならやま周辺の復旧後の土地利用の検討 		

(2) 高丘地区での検討経過

1) 地区の被害状況

第1回検討会では、被災前の状況や地区の被害状況について確認しました。

図表4-13 高丘地区の被害状況等



2) 住まいの再建意向

第1回および第3回検討会の後、個別意向調査の実施し、合計13世帯から住まいの再建意向を確認しました。

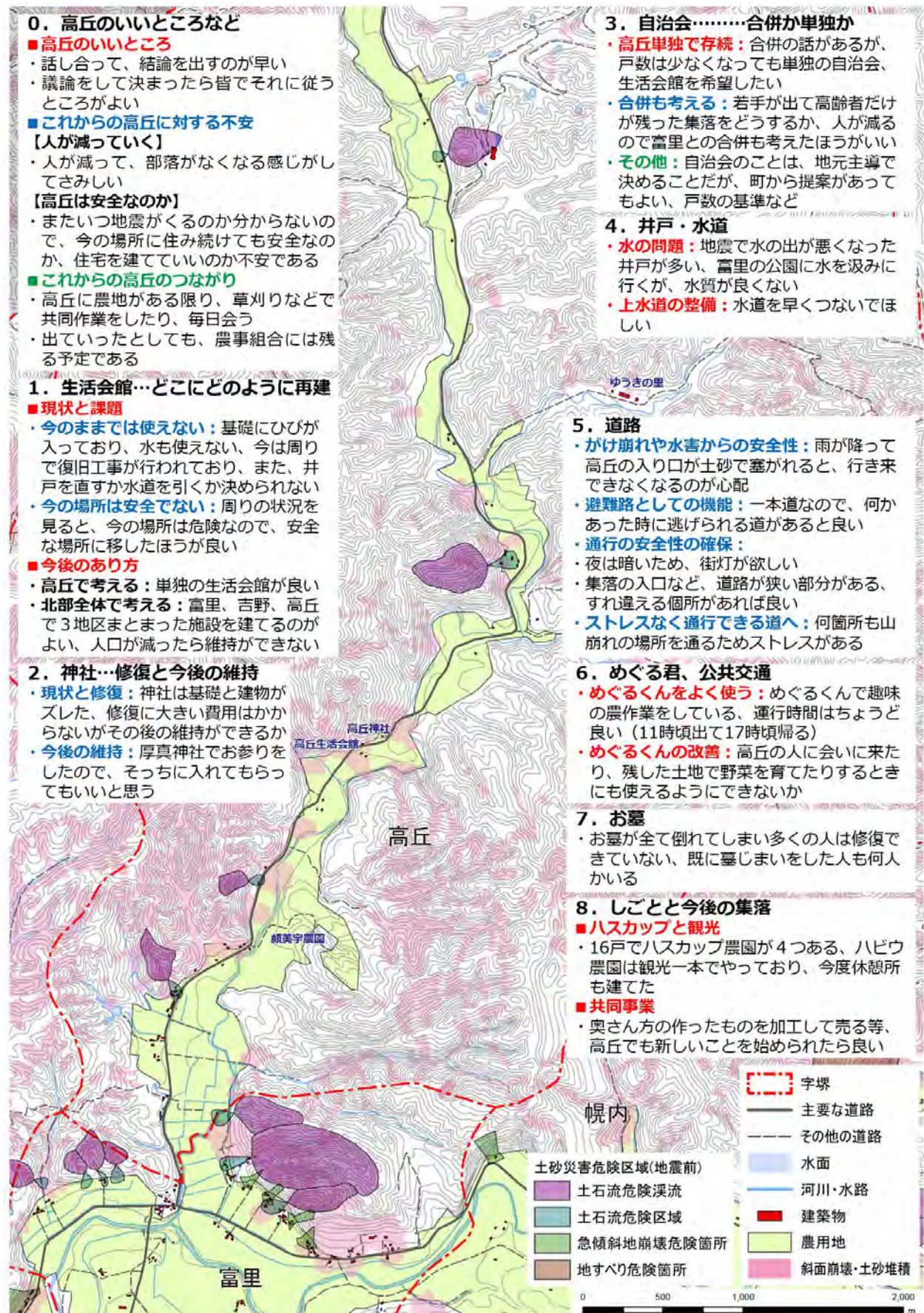
図表4-14 住宅の再建意向（令和元年11月時点）

再建場所	再建手法	世帯数	
地区内再建	現状維持又は修繕	8世帯	9世帯
	現地建替え	1世帯	
地区外再建	地区外での新築	3世帯	3世帯
未定		1世帯	1世帯

3) 地区の現状や課題の整理

第2回検討会では、個別意向調査の結果を踏まえ、地区の現状や課題等について共有しました。

図表4-15 地区の現状・課題等



4) 住宅や公共施設等の整備内容の検討

第3回検討会では、第2回までの検討会の意見を踏まえ、地域再生計画の考え方を示し、住宅や公共施設等の整備内容の検討を行いました。

図表4-16 地区の課題・取組方針

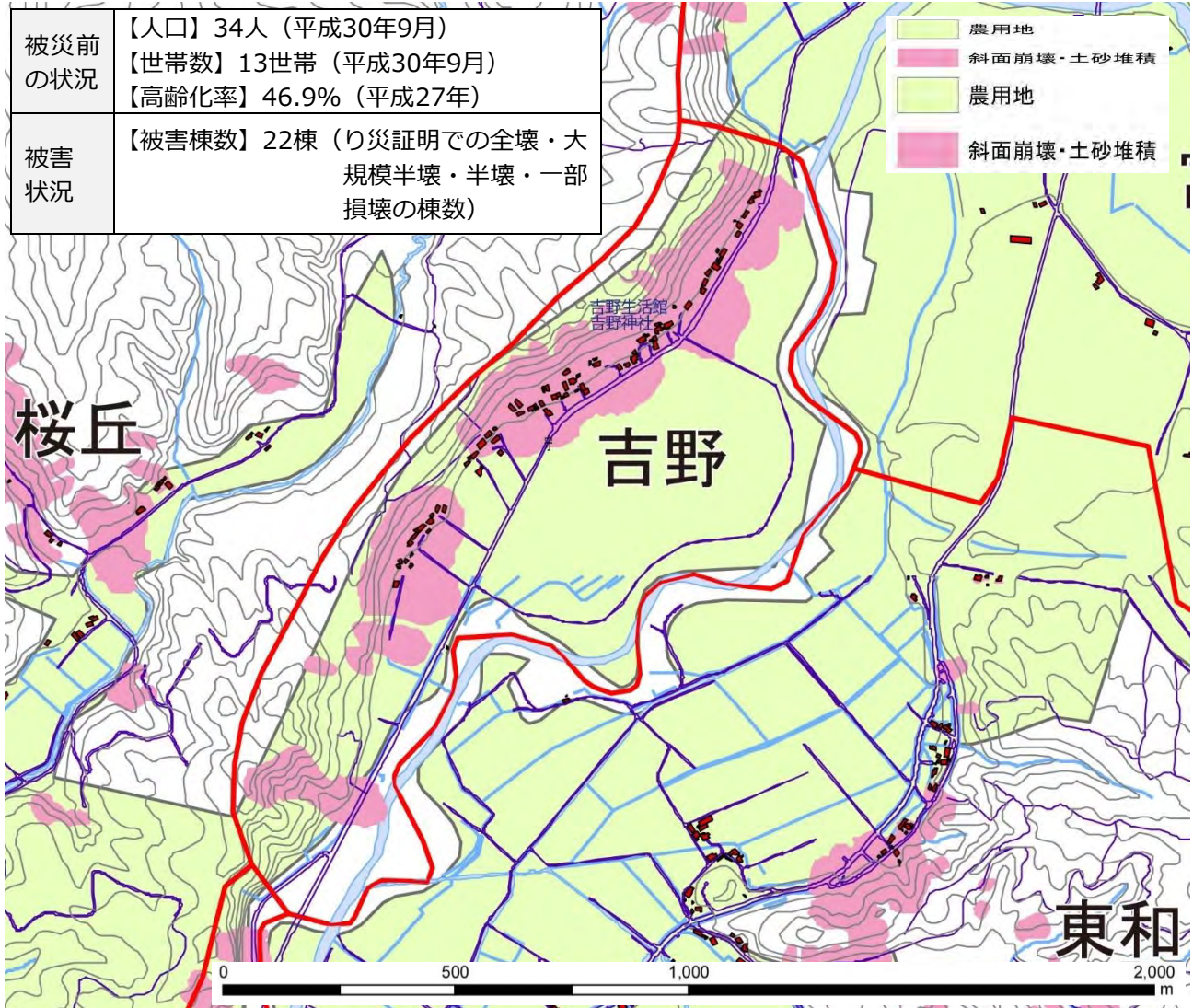
検討会・個別意向調査での意見	地域再生計画の考え方	検討課題	今後の取組方針										
<p>1. 住まいの確保</p> <p>◆住宅・宅地 また地震がくるのか分からないので、今の場所に住み続けても安全なのか、住宅を建てていいのか不安である ・1.本道の道路が塞がれると孤立してしまう ・移転する人が居て、隣までが遠くなり、災害時や日常生活に心配がある</p>	<p>①宅地の安全性の確保 ・宅地の安全性に心配がある場合は、個人の意向を尊重し、「災害危険区域」を指定して移転を促進する対策もある 移転等を希望する人には、集落内で住み続けられるための住宅や宅地を確保 ・小規模改良住宅（公営住宅）の整備、移転用宅地の確保（集落の南部、高里仮設集会所周辺、市街地周辺）</p>	<p>●宅地の安全性をどのように確保するか ●必要な小規模改良住宅、移転用宅地の整備 →個別の意向を伺いながら決めていく</p>	<p>「地域再生計画(復興事業編)」として住宅、公共施設等の整備内容を、早めめに決め、復興事業として実施</p>										
<p>2. 地区の安全性の確保</p> <p>◆道路①-集落を貫通する道路（道道夕張厚真線・町道高丘本線） ・一本道はかけ崩れが箇所も発生し集落が孤立した、今後何かあった時に安全な場所まで過ごせる対策が必要 ・かけ崩れの危険性がある場所の通行の安全性の確保 ・何箇所もかけ崩れの場所を通るためストレスがある ・幅員が狭く、行き違いができる場所が必要、夜は暗いため、街灯が欲しい</p> <p>◆道路②-集落入り口部分 ・集落の入り口は、幅員が狭く、高坂になっている ・川の合流点にも近く大雨のときには心配</p>	<p>③集落が孤立しない道路の確保 ・集落が孤立しないための道路機能の確保 →道路による対策（かけ崩れ防止、ルートの一部付け替え） →移転により安全な場所での住宅再建 ・日常的に、安全で通行しやすい道路への改善（車の退避所、ミラーや街灯など）</p> <p>④高丘入口道路の幅員と勾配の改良 ・幅員、急勾配等の箇所の改良、地形的制約（崖と川）があるのでから新たなルートも検討</p>	<p>●集落が孤立しない道路の確保 ・道路のみよる改善（複線化や大きなルート変更）は一定の限界もあるので、宅地も含めて考えたい</p> <p>●高丘入口道路 ・幅員、カーブ・交差点・勾配の改善箇所・ルート</p>											
<p>◆集会所/避難施設 ・生活会館は基礎にひびが入っており、水も出ないので使えない、また、水道が整備されるのは少し先になる ・周りの滑った状況を見ると今の場所は危険なので、安全な場所に移したほうが良い ・高丘単独の生活会館を再建するか、高里、吉野等といったよに考えるか ・人口が減ると維持できないので共同で建設も考えられる</p>	<p>⑤生活会館（集会所）の再建 ・再建のバターン 位置づけ 場所 メリット 課題</p> <table border="1" data-bbox="766 1052 941 1568"> <tr> <td>単独</td> <td>共同</td> </tr> <tr> <td>集落の南部に移動</td> <td>高里仮設集会所周辺</td> </tr> <tr> <td>近い</td> <td>規模・機能が確保 安全な場所</td> </tr> <tr> <td>水道がない</td> <td>アクセス</td> </tr> <tr> <td>維持管理の負担</td> <td>利用の調整が必要</td> </tr> </table>	単独	共同	集落の南部に移動	高里仮設集会所周辺	近い	規模・機能が確保 安全な場所	水道がない	アクセス	維持管理の負担	利用の調整が必要	<p>●生活会館（集会所）の再建 ・単独か、共同での再建かを、メリット・課題を踏まえて検討 ・設備、使い方の検討 ・避難所として過ごせる空間、備蓄物の倉庫等</p>	
単独	共同												
集落の南部に移動	高里仮設集会所周辺												
近い	規模・機能が確保 安全な場所												
水道がない	アクセス												
維持管理の負担	利用の調整が必要												
<p>◆防災 ・災害時の安否確認等、自治会組織で動けるような体制づくりが必要</p>	<p>⑥避難計画と施設改善の連携 ・現在検討している避難計画等と施設改善計画の連携 ・避難時の要配慮者等を配慮した避難所機能</p>	<p>●避難、避難時の要配慮者計画と道路・避難所整備の整合性確保</p>											
<p>3. 集落の持続的発展</p> <p>◆今後の自治会のあり方 ・高丘単独で存続するか、合併するか、両方の意見がある ・地元主導で決めることだが、町から提案があってもよい</p> <p>◆神社………修復と今後の維持 ・今後の維持管理を含めて修復、厚真神社に入るか</p>	<p>【高丘の集落のあり方を検討】 ①自治会のあり方 ※ 生活会館（集会所）については、自治会の在り方とは分けて検討</p> <p>【高丘の持続的発展を、行政・町民・関係団体協働で検討、町全体での課題も含めて】 ①通いの農業の人と居住者との連携・つながりの維持 ②公共交通の利便性の向上に向けた仕組みづくり ③水道の整備の推進 ④地域で活性化のために様々な活動を行うことに対する町の支援</p>	<p>●「地域の持続的発展に向けた課題として、町全体や関係団体、自治会などで継続的に検討していく」 ※具体的に検討を継続する場合は、町から支援</p>											
<p>◆通い農業の人とのつながり維持 ・高丘に農地がある限り、草刈りなどで共同作業をしたり、毎日会う、転出してても農事組合には残る予定である</p> <p>◆めぐるくん、公共交通 ・めぐるくんはよく使うが、高丘の人に会いに来る、残した土地で野菜を育てるときにも使えるようにできないか</p> <p>◆水道 ・多くの井戸の水の出が悪く、水道を早く繋いでほしい</p> <p>◆バスカッパと観光・交流 ・バスカッパ農園（4つ）を集落の活性化に役立てたい ・興さん方の作ったものを加工して売る等、高丘でも新しいことを始められたら良い</p>													

(3) 吉野地区での検討経過

1) 地区の被害状況

第1回意見交換会では、被災前の状況や地区の被害状況について確認しました。

図表4-17 地区の被害状況等



2) 地区の現状や課題の整理

個別意向調査の結果、以下の地区の現状や課題等が挙がりました。

図表4-19 地区の現状・課題等



(4) 富里・高丘・吉野エリア再生計画

以上の3地区の検討結果を踏まえ、富里・高丘・吉野エリアの再生計画を取りまとめました。

富里・高丘・吉野エリア再生計画

富里・高丘・吉野エリア内での安全で安心な住まい・暮らしの確保や災害に強い道づくりと合わせて、厚真川左岸の高台に、富里・高丘・吉野エリアの防災拠点・コミュニティ拠点を新たに形成する。

1) 避難所等の整備

- 本震災で富里、高丘、吉野の各集落内の集会施設（「高齢者自立支援センターならやま」、「高丘生活会館」「吉野生活会館」）が被災したことから、土砂災害や浸水被害からの安全性の高い厚真川左岸の高台に周辺地区が共同で利用できる集会機能を有する北部地域の防災拠点を整備する。

【候補地】 富里地区仮設集会所周辺

【機能】 避難所機能、集会機能、北部地域の復興支援機能（検討中）

【活用事業】 都市防災総合推進事業

※施設規模や必要機能、管理・運営方法等については、今後周辺自治会の意向も伺いながら検討を進める。

- 今後の災害に備えて、緊急ヘリポートの検討や自主防災組織の立ち上げ、地区内での避難計画の策定などを進め、ハードとソフト両面から避難等ができる体制を構築する。

2) 道路の整備

- 本震災で道道上幌内早来停車場線が土砂で閉塞したことを受け、今後の災害に備えて、厚真市街地に至る道路の複線化（左岸道路の整備）を行い、安全な避難路を確保する。

【整備予定】・既存道路の舗装部分の拡幅（1.5車線程度）+待避所の整備

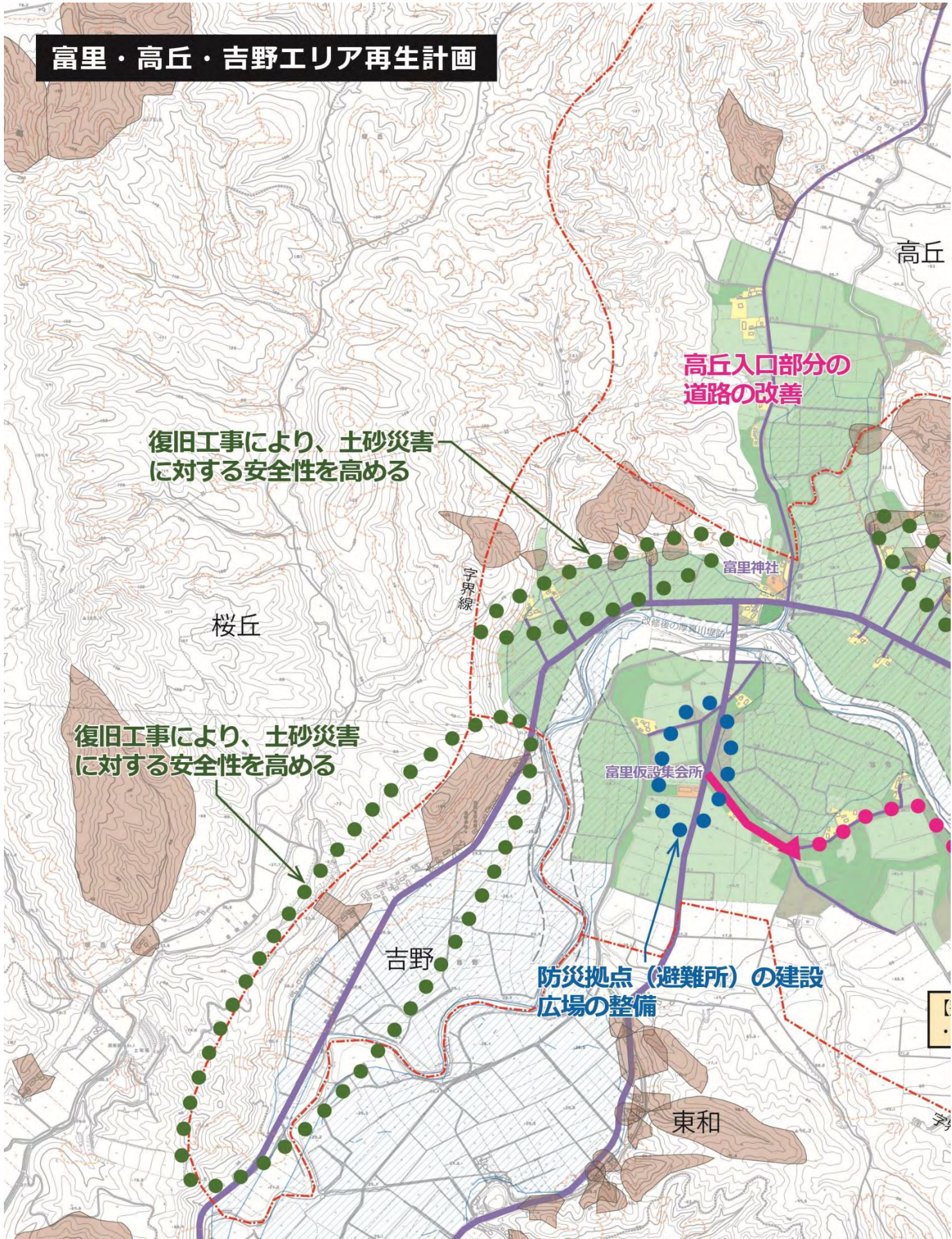
・未接続区間の道路の新設（検討中）

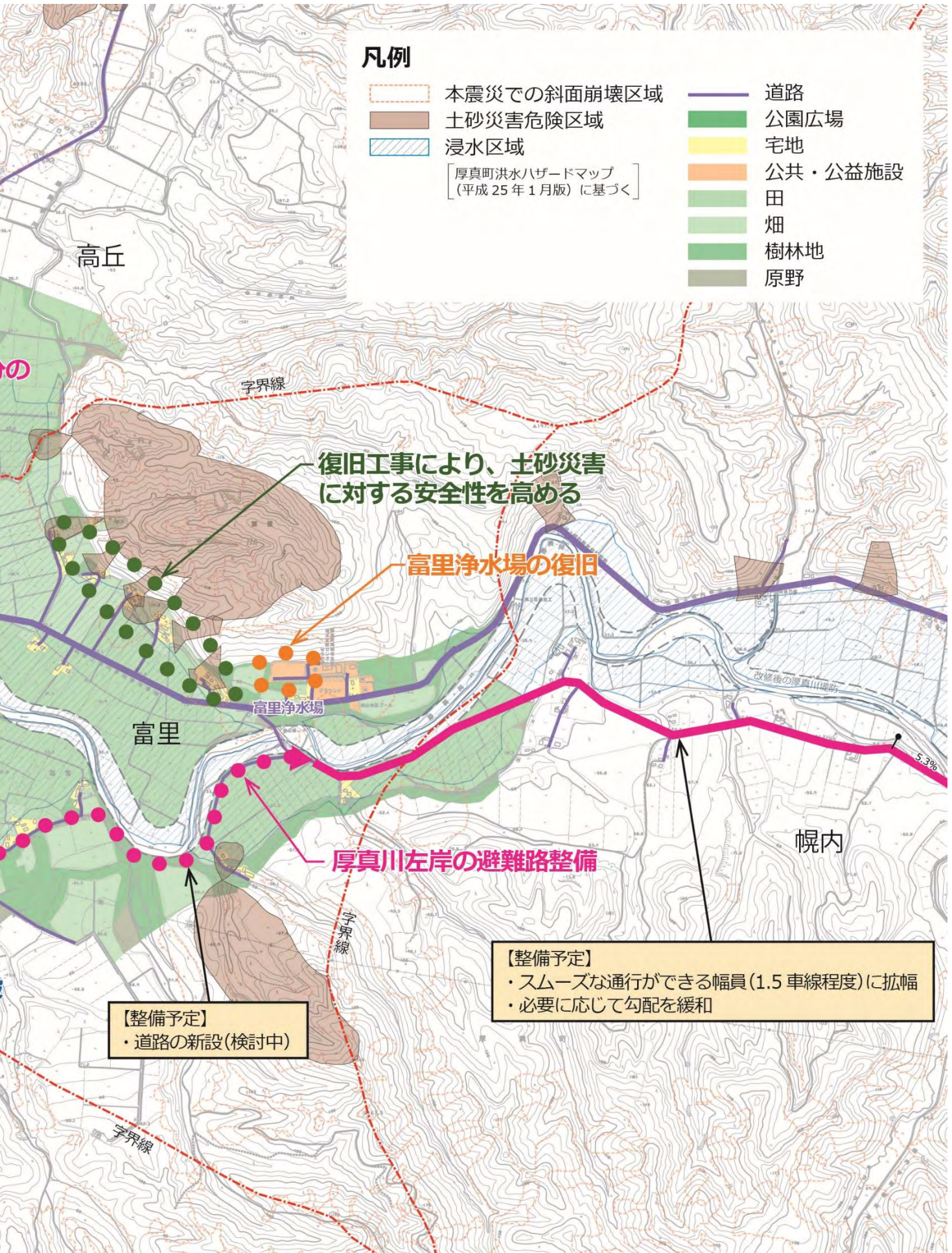
- 道道夕張厚真線が土砂災害により閉塞し集落の孤立化を防ぐため、高丘入口部分の道路の改善を検討する。

3) 住まいの再建












- 個別相談を引き続き実施し、住まいの再建に向けた支援を継続する。

図4-21 富里・高丘・吉野エリア再生計画





凡例

- | | | | |
|---|-------------|---|---------|
|  | 本震災での斜面崩壊区域 |  | 道路 |
|  | 土砂災害危険区域 |  | 公園広場 |
|  | 浸水区域 |  | 宅地 |
| [厚真町洪水ハザードマップ
(平成 25 年 1 月版) に基づく] | |  | 公共・公益施設 |
| | |  | 田 |
| | |  | 畑 |
| | |  | 樹林地 |
| | |  | 原野 |

復旧工事により、土砂災害
に対する安全性を高める

富里浄水場の復旧

厚真川左岸の避難路整備

【整備予定】
・道路の新設(検討中)

【整備予定】
・スムーズな通行ができる幅員(1.5車線程度)に拡幅
・必要に応じて勾配を緩和

5. 今後の予定

今後北部4地区で予定している各種事業や支援などを以下に示します。

(1) 各種事業の実施

- ・小規模改良住宅の整備（小規模住宅地区改良事業）や北部地域の防災拠点・厚真川左岸道路の整備（都市防災総合推進事業）に向けて、順次調査・計画・用地取得・設計・工事等を進めていきます。
- ・富里・高丘・吉野エリア再生計画で記載している北部地域の防災拠点の整備については、令和2年8月から関係自治会の方々を集めた合同会議を開催し、施設の具体的な整備内容の検討を進めます。
- ・地域再生計画と関連する各種事業の進捗状況については、適宜、地域の皆さんへの報告を行います。

(2) 個別の住宅再建支援

- ・北部4地区のすべての世帯が住まいの再建目途を立てられるように、今後の住まいに関して困りごとを抱える世帯に対して、個別相談や専門家からアドバイスを行うなど支援を行います。

(3) 集落支援員による支援

- ・北部4地区を中心とした復興の支援を行うため、国の制度を活用し集落支援員を配置しました。集落支援員には地域の実情に詳しい人材を配置し、町職員と連携しながら、集落の巡回や状況把握、住民同士や住民と役場間での話し合いの促進に向けた支援などを行います。
- ・集落支援員による支援などをもとに、必要に応じて地域再生計画の内容の見直しを行います。

北部4地区 地域再生計画

令和2年9月発行

編集・発行 北海道厚真町

連絡先 厚真町まちづくり推進課
〒059-1692 厚真町京町120番地
TEL 0145-27-3179